

**2022 (令和 4) 年度**

**経済・経営学演習  
経済工学演習**

**募 集 要 項**

**九州大学経済学部**

## < 目 次 >

1. はじめに	1
2. ゼミ応募の際の注意	2
(1) 両学科共通の注意事項	2
a. ゼミは必修	2
b. ゼミは定員制	2
c. ゼミの募集は第1次、第2次の2回に分けて行われます	2
d. 4年次以降から演習に参加する場合	2
e. 複数のゼミへの参加申込み	2
f. 高年次で留学を希望する場合	2
(2) 個別の注意事項	3
a. 経済・経営学科の皆さん	3
b. 経済工学科の皆さん	3
c. 21世紀プログラムの皆さん	3
d. 文系4学部副専攻プログラムの単位として履修希望の文系他学部の皆さん	3
3. ゼミ募集スケジュール	4
4. ゼミ説明会日程一覧	5
5. 推奨科目一覧（経済・経営学科のみ）	7
6. 教員別ゼミ募集要項	8
* 経済・経営学演習（経済分析系）	9
* 経済・経営学演習（産業分析系）	20
* 経済・経営学演習（企業分析系）	31
* 経営工学演習	42

## 1. はじめに

2006年度に九州大学経済学部が導入したカリキュラムは、全国の主要大学のカリキュラムの研究を通じてその良き部分を取り入れ、なおかつ九州大学経済学部蓄積されてきた独自の研究成果が反映されるように工夫された、オリジナルで体系的なカリキュラムです。

このカリキュラムは、基本科目の体系的配置、大学院への進学の容易化(学部・学府一貫教育プログラム)などのほか、3年次以上の演習(以下「ゼミ」と表記)が必修科目となっている点に、大きな特色があります。また2007年度からのGPA制度の全学的導入にあわせて、経済学部の修学指導体制も強化され、3-4年次の学生はゼミの指導教員が学生の修学や大学生活上の指導を担当することになりました。

これらのシステムにより、「経済学部にとりあえず入学したが、経済学になかなか興味を見出せない」「友人と何かと一緒に取り組んで頑張りたいがそのような機会がなかなか無い」など、これまでの経済学部で先輩の一部が直面してきた問題を、学生諸君と教員と一緒に解決していくことが期待されます。

Seminarとは、19世紀にドイツの大学で導入されて以来(そのためセミナーではなくゼミナールと呼びます)、全世界で広範に採用されている大学教育の普遍的な実施形態の一つです。最近「社会性」や「問題発見や解決スキル」を重視する企業が多く、大学での少人数教育がますます重視される傾向にあります。九州大学経済学部のゼミは、教員1名に対して学生が1学年約10名以下の密度の高い少人数教育となります。こうした性格から、同じ「単位」という成績認定方法を採用していますが、通常の講義とゼミとでは、その意味内容が大きく異なります。「どのゼミに入るか」によって、「大学で何を学んだか?」のみならず「大学で何をしたか?」が決まるといっても過言ではありません。

皆さんは、この募集要項に記載された「2.ゼミ応募の際の注意」や「3.ゼミ募集スケジュール」などを熟読のうえ、「6.教員別ゼミ募集要項」でできる限り多くのゼミを比較検討し、経済学部HPに掲載される「演習参加申込書」をダウンロードのうえで応募してください。希望するゼミへのチケットが入手できることを祈念しています。

## 2. ゼミ応募の際の注意

### (1) 両学科共通の注意事項

#### a. ゼミは必修

2006 (H18) 年度入学生より実施のカリキュラムでは、高年次の演習(経済・経営学演習、経済工学演習)は必修科目です。経済・経営学科では8単位、経済工学科では4単位を取得しないと卒業できません。4月になって新年度の演習の履修登録が可能となるのは、募集要項の3で示すスケジュールに従ってゼミに応募し、事前に指導教員から入ゼミを許可された人だけです。従って、皆さんは必ず本冊子を熟読のうえ、手続きに従ってゼミへの受入内諾を各担当教員から得てください。

#### b. ゼミは定員制

ゼミに定員(=学年毎の主演習としての参加可能人数の上限)が設定されており、経済・経営学科では第1次募集が10名、第2次募集が1次募集での受講決定数と合わせて10名、経済工学科では第1次募集が約10名、第2次募集が第1次募集での受講決定数と合わせて約10名となっています。

従って受講希望者がその人数を越えた場合には、演習参加申込書による選抜が必ず行なわれることとなります。また、受講希望者が上記定員以下の場合でも、申込者が一定数に達した演習では選抜が実施されます。

#### c. ゼミの募集は第1次、第2次の2回に分けて行われます

第1次募集時にはゼミを1つ選び、「演習参加申込書」を1枚提出します。第2次募集時にはゼミを2つ選び、「演習参加申込書」を2枚(第1希望および第2希望)を提出します。

#### d. 4年次以降から演習に参加する場合

4年次からゼミへの参加を希望する学生は、3-4年次が別の時間帯に設定され演習内容が異なるゼミもありますので、「演習参加申込書」の所定欄に、参加を希望する演習が、①3年次を対象とするものか、②4年次を対象とするものかについて必ず記入してください。

#### e. 複数のゼミへの参加申込み

複数のゼミを受講することも可能です。

① 新3年生: 「3. ゼミ募集スケジュール」に示す第1次および第2次募集で、まず自分の専攻する学科の中から、自分にとって主となる演習(=主演習)に応募してください。主演習の結果発表後、3月以降に参加を希望する副演習の担当教員へ「演習参加申込用紙(副演習用)」を提出し、演習参加の許可を得てください。(教員から許可を得た学生だけが4月からの演習に参加することができます。)

② 新4年生: 既に3年次で演習を受講している学生が、4年生になってから「副演習」に応募することも可能です。その場合、主演習の結果発表後の3月以降に、参加を希望する副演習の担当教員へ直接相談のうえ「演習参加申込用紙(副演習用)」を提出し、演習参加の許可を得てください。(教員から許可を得た学生だけが4月からの演習に参加することができます。)

なお、「副演習」に関しては、自分が所属する学科とは異なる学科の演習に応募することも可能です。それぞれのゼミが「副演習」として応募可能かどうかは、第2次募集の採用結果を掲示する際に、学年別に掲示します。(副演習を募集するゼミと募集しないゼミがありますのでご注意ください。)

#### f. 高年次で留学を希望する場合

高年次において半年または1年間、海外留学する場合、「演習科目受講願」を教務課(経済担当)にて入手し、記入のうえ担当教員に提出し、教員の了承が得られた場合のみ演習への申し込みができます。

## (2) 個別の注意事項

### a. 経済・経営学科の皆さん

- ① 「主演習」による「系」の自動決定: 経済・経営学科生は、今回のゼミ募集で受入れが決まった「主演習」の担当教員が属する「系」に従って、「経済分析」「産業分析」「企業分析」の三つの「系」への配属が自動的に決まります(『学生便覧』参照)。所属する「系」ごとに、卒業に向け履修すべき「選択必修科目」が異なりますので、履修の際には十分に注意してください。
- ② 4年次で主演習を変更する場合: 3年次の主演習参加により決まった「系」は卒業まで動かさせません。ただし、4年次になってから、3年次に受講した主演習とは異なる演習の受講を希望する学生は、3年次の「主演習」と同一の「系」内で、参加演習を変更することは可能です。希望する学生は、当該年度向けのゼミ募集の際に新たに新4年次生として応募して、受け入れ内諾を得てください。
- ③ 3年次で主演習と副演習の履修により卒業要件を満たした場合: 経済・経営学演習の必修は8単位ですから、3年次であっても主演習4単位と副演習4単位(ただし、経済・経営学演習に限る。)を同時履修して単位を修得すれば、卒業要件を満たすことになります。ただし、ゼミは単位取得だけを目的とするものではありませんから、できる限り3年次から卒業まで通しで受講するようにしてください。(8単位を超えて修得した単位は8単位まで「自由選択科目」に含めることができます。)

### b. 経済工学科の皆さん

経済工学演習の必修は4単位ですから、経済工学科の学生は、①3年次だけ履修、或いは、②4年次以降になってから履修、という受講方法も可能です。ただし、ゼミは単位取得だけを目的とするものではありませんから、できる限り3年次から卒業まで通しで受講するようにしてください。なお、①の場合、早い時期(3年次の1月末まで)に指導教員にその旨を申し出てください。②の場合、上記「(1)d. 4年次以降から演習に参加する場合」に記載されている指示に従ってください。

### c. 21世紀プログラムの皆さん

経済学部の演習の受講を希望する場合、募集要項に示された手続きに従って応募してください。

### d. 文系4学部副専攻プログラムの単位として履修希望の文系他学部の皆さん

横断型プログラムの「グローバル時代のビジネス」及び専門領域型プログラムの「経済学・経営学のツールで解く現代社会の諸課題」を履修しており、経済・経営学演習又は経済工学演習を履修希望の学生については、「副演習」募集の際にゼミ申込をしてください。1次募集、2次募集の際は、応募できません。

参加を希望する副演習の担当教員へ「演習参加申込用紙(副演習用)」を提出し、演習参加の許可を得てください。

### 3. ゼミ募集スケジュール

ここでは、ゼミの応募にあたっての注意と、手続きについて説明します。第1次、第2次募集の申込期限と内定者発表の流れは以下のとおりです。日時など間違わないように注意して応募してください。

#### (1) 主演習の応募

11月中旬～	ゼミ募集要項を、 <b>経済学部ホームページのゼミナール関連情報</b> ( <a href="https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~seminar/index.php">https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~seminar/index.php</a> )で公開します。冊子の配布はありません。
11月17日(水)～1月7日(金)	<b>オープンゼミ</b> に参加して、教員や先輩の意見を聞き、応募するゼミを決めてください。なお、オープンゼミを開催するゼミと開催しないゼミがありますので、開催の有無、開催方法(対面/オンライン)、開催の日時・場所等はゼミ募集要項やゼミナール関連情報サイトで確認してください。 <b>(※オープンゼミの開催日と履修している授業が重複する場合は、授業への出席を優先すること。)</b>

(注) **オープンゼミ**とは、通常のゼミの様子(教員とゼミ生とのやりとりや学習内容)を見て感じてもらうために、ゼミの時間を開放する見学会をいいます。**ゼミ説明会**とは、ゼミの特徴や内容などを知ってもらうために特別に開催する懇談会をいいます。

#### 【第1次募集】

1月6日(木)～13日(木) 17:00まで	「演習参加申込書」に記入の上、 <b>指定の方法で提出</b> してください。 <b>演習参加申し込みは一人一ゼミです。二つ以上申し込みした場合は無効になります。また、メールでの提出は認めません。</b>
1月28日(金)	経済学部掲示板及び <b>経済学部ホームページ</b> に第1次募集の内定者名簿を掲示します。 【受入れが未決の学生】→第2次募集での受入れが「可」と表示されているゼミに、必ず応募してください。空きがあれば、第1次募集時と同一ゼミへの再申し込みも可能です。

#### 【第2次募集】

1月28日(金)～2/4日(金) <b>12:00まで</b>	第1次募集内定未決学生は、第1次募集の内定者名簿掲示の際に、第2次募集受入「可」(学年別に表示されるので注意してください)と表示されている演習を選択して、「 <b>演習参加申込書</b> 」を <b>2部(第1希望用および第2希望用)</b> 作成し、指定の方法で提出してください。  ※教員によっては第2次募集期間中に面接を実施することがある。面接を受けられない場合の措置は教員によって異なるので、「演習参加申込書」を提出する前に、希望教員にメール等で確認しておくこと。
2月25日(金)頃、確定次第随時	経済学部掲示板及び <b>経済学部ホームページのゼミナール関連情報</b> に第2次募集の内定者名簿を掲示します。

#### (2) 副演習の応募

2次募集結果発表後(3月中)	副演習は3月中が募集期間となります。副演習への参加を希望する学生は、希望するゼミの教員へ相談のうえ、 <b>教務課経済担当ではなく、直接、教員へ演習参加申込書を提出してください。</b> 入ゼミの可・否については、ゼミ教員が決めることになります。 <b>※副演習を募集するゼミと募集しないゼミがありますのでご注意ください。</b>
4月以降	受け入れが決まった演習に履修登録を行ってください。 (受入れ許可が出ていない演習への登録はできません。)

#### 4. ゼミ説明会日程一覧

学科	系等	教員名	メールアドレス	実施日時			実施形態 (詳細は各教員ページを 確認すること)	実施場所	
				日	曜日	時間			
経済・経営学演習	経済分析	加河 茂美	kagawa@econ.kyushu-u.ac.jp	11月19日	金	16:40-17:20	対面	E-208	
				12月24日	金	16:40-17:20		E-208	
				1月7日	金	16:40-17:20		E-208	
		八木 信一	yatsuki@econ.kyushu-u.ac.jp	オンデマンド配信。なお、ゼミ相談会をZoomで開催する。 日程等の詳細については、ゼミナール関連情報サイトを参照すること。					
		前田 真一郎	maeda@econ.kyushu-u.ac.jp	12月7日	火	16:40-18:10	ハイフレックス(オンラインと対面)	B-112	
				12月23日	木	16:40-18:10		B-112	
		岩田 健治	iwata@econ.kyushu-u.ac.jp	11月25日	木	12:10-12:50	オンライン	-	
		清水 一史	shimizu@econ.kyushu-u.ac.jp	12月10日	金	16:40-18:10	ハイフレックス(オンラインと対面)	D-107	
				12月21日	火	16:40-18:10		E-105	
		石田 修	ishida@econ.kyushu-u.ac.jp	12月7日	火	12:15-12:45	オンライン	-	
		篠崎 彰彦	shino@econ.kyushu-u.ac.jp	12月14日	火	12:10-12:50	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211	
				12月21日	火	12:10-12:50		E-211	
	水野 敦子	amizuno@econ.kyushu-u.ac.jp	12月14日	火	16:40~17:40	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211		
	深川 博史	fukagawa@econ.kyushu-u.ac.jp	募集なし						
	藤井 秀道	hidemichifujii@econ.kyushu-u.ac.jp	12月3日	金	14:50-16:20	対面	E-324		
			12月14日	火	16:20-17:00		E-324		
			12月17日	金	16:40-18:10		E-324		
	與倉 豊	yokura@econ.kyushu-u.ac.jp	12月14日	火	12:15-12:45	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-202		
			12月23日	木	12:15-12:45		E-202		
	堀井 伸浩	horii@econ.kyushu-u.ac.jp	12月17日	金	12:00-12:50	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211		
	安田 聡子	*教務課までお問合せください	12月16日	木	12:00-12:20	オンライン	-		
			1月7日	金	12:00-12:20		-		
	鷺崎 俊太郎	shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp	11月25日	木	12:10-12:50	オンライン	-		
			12月9日	木	12:10-12:50		-		
	北澤 満	kitazawa@econ.kyushu-u.ac.jp	12月3日	金	16:40-17:10	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-205		
			12月22日	水	12:10-12:40		E-205		
			1月6日	木	16:40-17:20		E-205		
	左近 幸村	*教務課までお問合せください	12月15日	水	12:10-12:30	オンライン	-		
	大坪 稔	otsubo@econ.kyushu-u.ac.jp	12月20日	月	16:30-17:00	ハイフレックス(オンラインと対面)	D-107		
	岸野 早希	sakishino@econ.kyushu-u.ac.jp	11月30日	火	13:30-14:20	対面	E-202		
			12月21日	火	12:10-12:50		オンライン	-	
	中本 龍市	ryunakamoto@econ.kyushu-u.ac.jp	オンデマンド配信。 詳細については、ゼミナール関連情報サイトを参照すること。						
	内田 大輔	dachida@econ.kyushu-u.ac.jp	11月29日	月	12:00-13:00	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211		
			12月20日	月	12:00-13:00		E-211		
	丸田 起大	maruta@econ.kyushu-u.ac.jp	12月9日	木	15:00-15:30	ハイフレックス(オンラインと対面)	D-109		
			12月22日	水	12:15-12:45		D-109		
	大石 桂一	oishik@econ.kyushu-u.ac.jp	12月9日	木	16:40-17:30	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211		
	潮崎 智美	shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp	12月13日	月	17:00	オンライン	-		
	小津 稚加子	ozu@econ.kyushu-u.ac.jp	12月14日	火	16:30-17:00	オンライン	-		
			12月21日	火	16:30-17:00		-		
	三浦 功	miura@econ.kyushu-u.ac.jp	募集なし						
	藤田 敏之	tfujita@econ.kyushu-u.ac.jp	12月7日	火	12:15-12:45	オンライン	-		
池下 研一郎	ikeshita@econ.kyushu-u.ac.jp	12月8日	水	13:00-14:30	オンライン	-			
		12月22日	水	13:00-14:30		-			
山崎 大輔	yamazaki@econ.kyushu-u.ac.jp	11月26日	金	12:10-12:40	オンライン	-			
瀧本 太郎	takimoto@econ.kyushu-u.ac.jp	12月8日	水	12:20-12:40	オンライン	-			
村尾 徹士	mura@econ.kyushu-u.ac.jp	12月3日	金	18:20-19:00	オンライン	-			
宮崎 毅	tmiyazak@econ.kyushu-u.ac.jp	11月25日	木	14:50-15:20	オンライン	-			
		11月26日	金	15:20-15:50		-			
三輪 宏太郎	kotmiwa@econ.kyushu-u.ac.jp	1月6日	木	12:05-12:30	ハイフレックス(オンラインと対面)※ 説明会は、ハイフレックスの予定ですが、 オンラインに切り替える可能性があります。	E-211			
浦川 邦夫	urakawa@econ.kyushu-u.ac.jp	12月22日	水	12:10-12:40	対面	E-201			
葉 聡明	yeh@econ.kyushu-u.ac.jp	11月18日	木	16:40-17:10	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211			
内田 交謹	kuchida@econ.kyushu-u.ac.jp	12月23日	木	14:50-17:50	ハイフレックス(オンラインと対面)	D-107			
堀 宣昭	hori@econ.kyushu-u.ac.jp	12月24日	金	15:00-16:00	オンライン	-			
室賀 貴穂	kiho.muroga@econ.kyushu-u.ac.jp	11月18日	木	12:00-12:20	オンライン	-			
		11月19日	金	12:30-13:00		-			
菅 史彦	f.suga@econ.kyushu-u.ac.jp	11月22日	月	12:30-13:00	オンライン	-			
		12月3日	金	12:10-12:40		オンライン	-		
北原 知就	tomonari.kitahara@econ.kyushu-u.ac.jp	募集なし							
大西 俊郎	ohnishi@econ.kyushu-u.ac.jp	募集なし							
小室 理恵	rie.komuro@econ.kyushu-u.ac.jp	12月6日	月	12:10-12:55	ハイフレックス(オンラインと対面)	E-211			
松本 浩一	k-matsu@econ.kyushu-u.ac.jp	12月10日	金	9:00-10:00	オンライン	-			
古川 哲也	furukawa@econ.kyushu-u.ac.jp	11月26日	金	16:40-17:10	オンライン	-			
伊豆永 洋一	izunaga@econ.kyushu-u.ac.jp	12月10日	金	12:15-12:45	オンライン	-			
		12月13日	月	12:15-12:45		オンライン	-		

## 令和3年度ゼミ説明会 開催時刻・教室

(日付順)

月	日	曜日	時間	経済分析系		産業分析系		企業分析系		経済工学科		
				ゼミ	場所	ゼミ	場所	ゼミ	場所	ゼミ	場所	
11月	18日	木	12:00-12:20							室賀	-	
			16:40-17:10							葉	E-211	
	19日	金	12:30-13:00							菅①	-	
			16:40-17:20	加河①	E-208							
	22日	月	12:30-13:00							菅②	-	
	25日	木	12:10-12:50	岩田	-							
			12:10-12:50			鷺崎①	-					
			14:50-15:20							宮崎①	-	
	26日	金	12:10-12:40								山崎	-
			15:20-15:50								宮崎②	-
16:40-17:10										古川	-	
29日	月	12:00-13:00					内田(大)①	E-211				
30日	火	13:30-14:20					岸野①	E-202				
12月	3日	金	12:10-12:40								北原	-
			14:50-16:20	藤井(秀)①	E-324							
			16:40-17:10			北澤①	E-205					
			18:20-19:00								村尾	-
	6日	月	12:10-12:55								小室	E-211
			12:15-12:45	石田	-						藤田	-
	7日	火	16:40-18:10	前田①	B-112							
			12:20-12:40								瀧本	-
	8日	水	13:00-14:30								池下①	-
			12:10-12:50			鷺崎②	-					
	9日	木	15:00-15:30					丸田①	D-109			
			16:40-17:30					大石	E-211			
			9:00-10:00								松本	-
	10日	金	12:15-12:45								伊豆永①	-
			16:40-18:10	清水①	D-107							
			12:15-12:45									伊豆永②
	13日	月	17:00					潮崎	-			
			12:10-12:50	篠崎①	E-211							
	14日	火	12:15-12:45			與倉①	E-202					
			16:20-17:00	藤井(秀)②	E-324							
			16:30-17:00					小津①	-			
			16:40~17:40	水野	E-211							
			12:10-12:30			左近	-					
	15日	水	12:00-12:20			安田①	-					
12:00-12:50					堀井	E-211						
16日	木	16:40-18:10	藤井(秀)③	E-324								
		16:30-17:00					大坪	D-107				
17日	金	12:00-13:00					内田(大)②	E-211				
		12:10-12:50	篠崎②	E-211			岸野②	-				
18日	火	16:30-17:00					小津②	-				
		16:40-18:10	清水②	E-105								
		12:10-12:40			北澤②	E-205				浦川	E-201	
19日	水	12:15-12:45					丸田②	D-109				
		13:00-14:30								池下②	-	
		12:15-12:45			與倉②	E-202						
20日	木	14:50-17:50								内田(交)	D-107	
		16:40-18:10	前田②	B-112								
		15:00-16:00								堀	-	
21日	金	16:40-17:20	加河②	E-208								
		12:05-12:30								三輪	E-211	
1月	6日	木	16:40-17:20			北澤③	E-205					
			12:00-12:20			安田②	-					
			16:40-17:20	加河③	E-208							

## 5. 推奨科目一覧（経済・経営学科のみ）

経済・経営学科の学生は、各ゼミが推奨する「基本科目」（＝推奨基本科目。以下の表を参照）を受講していることやその成績が、ゼミの選抜の際に参考とされるケースもありますので、その点を考慮して応募してください。

経済・経営学科のゼミ担当教員別 推奨基本科目一覧

1-2年		3-4年			系				
学科の必修科目	推奨基本科目								
	経済史 I・II	経営学 I・II	会計学 I・II	情報処理I・ 計量経済学	国際 経済学 I・II	3-4年次演習 (ゼミ)担当教員	教員が担当している 専攻教育科目		
<b>【学部必修】</b> ・経済学入門 + <b>【学科必修】</b> ・マクロ経済学I ・マクロ経済学II ・ミクロ経済学I ・ミクロ経済学II ・政治経済学I ・政治経済学II + <b>【ゼミ推奨】</b> ・右表参照						加河 茂美	経済統計	経済分析	
						八木 信一	地域政策		
						前田 真一郎	金融システム		
					◎	岩田 健治	国際金融		
					◎	清水 一史	世界経済		
					◎	石田 修	貿易投資分析		
						篠崎 彰彦	情報経済		
						水野 敦子	開発経済		
						深川 博史	農業政策		
						藤井 秀道	現代日本経済論		
						與倉 豊	産業配置	産業分析	
						堀井 伸浩	産業構造		
						安田 聡子	産業技術		
		◎※				鷺崎 俊太郎	日本経済史		
		◎				北澤 満	日本経済史	西洋経済史	
		◎				左近 幸村	西洋経済史		
			◎				大坪 稔	経営政策	企業分析
			◎				岸野 早希	経営労務	
			◎				中本 龍市	経営管理	
		◎				内田 大輔	日本経営論		
			◎			丸田 起大	管理会計		
			◎			大石 桂一	企業会計		
			◎			潮崎 智美	財務会計		
			◎			小津 稚加子	国際会計		

注) 以上は2022年度開始時点の情報に基づくが、実際の開講にあたっては、教員の海外研修・新規採用、その他の事情により、一部で追加や変更が生じる可能性がある。

※「経済史I」のみ推奨

## 6. 教員別ゼミ募集要項

* 経済・経営学演習（経済分析系） .....	9
* 経済・経営学演習（産業分析系） .....	20
* 経済・経営学演習（企業分析系） .....	31
* 経営工学演習 .....	42

## 経済・経営学演習 (加河 茂美 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	環境経済システム論	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	加河茂美	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	環境問題、資源問題、自然災害問題に関心があること		キーワード	パリ協定、環境規制、産業、企業、製品、都市、地球温暖化、循環型社会、環境問題、持続可能性、自然災害	
全体の教育目標	環境経済システムという大きな枠組みだけでなく、個別の環境規制策の有効性にも焦点を当て、現代の環境・資源問題の核心について学ぶ。現場見学、他大学ゼミとの合同セミナー、グループ学習などを通して、探究心、考察力を養う。		個別の学習目標		
<b>授業の概要</b>					
3-4年合同でゼミを行う。 3年生前期：教科書・参考書の輪読・発表（例：環境経済学をつかむ（栗山浩一・馬奈木俊介著）、環境評価入門（鷲田豊明著）、経済効果入門（地域活性化・企業立案・政策評価のツール）（小長谷一之・前川知史）など） 3年生後期：各自関心のある環境・資源・災害問題をテーマにして研究し、発表・質疑を通して問題の本質を理解し、問題解決に向けた政策提言を目指す。 4年生：各自関心のある環境・資源・災害問題をテーマにして研究し、発表・質疑を通して問題の本質を理解し、問題解決に向けた政策提言を目指す。					
<b>授業計画</b>					
3年生前期：教科書・参考書の輪読・発表・質疑、現地調査、 3年生後期・4年生：自分の問題意識のブラッシュアップ→研究テーマ案の発表→研究テーマの確定→研究→中間発表（9月合同セミナー）→研究→研究発表会・表彰（1月）					
<b>授業の進め方</b> ゼミ形式			<b>教科書及び参考図書</b> 環境経済学をつかむ（栗山浩一・馬奈木俊介著）、環境評価入門（鷲田豊明著）、経済効果入門（地域活性化・企業立案・政策評価のツール）（小長谷一之・前川知史）		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平常点で評価する。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
4月：花見&新ゼミ生歓迎会 5月～7月：バーベキュー、登山、海釣り、スポーツ大会、現場見学 7月：ゼミ旅行(2019年度は老岐) 8月：暑気払い 9月：合同ゼミ(2019年度は谷川ゼミ(名古屋大学)、橋本ゼミ(立命館大学)、重富ゼミ(長崎大学)と和歌山県・那智勝浦温泉で実施) 10月：合同バーベキュー(北澤ゼミ・瀧本ゼミ・藤井(秀)ゼミ) 11月：ゼミ同窓会、登山、海釣り、スポーツ大会など、12月：忘年会など。					
<b>応募に当たっての注意</b>					
当ゼミの説明会はマスク着用の上原則対面形式にします。オンラインでの参加希望の方は説明会前に私( <a href="mailto:kagawa@econ.kyushu-u.ac.jp">kagawa@econ.kyushu-u.ac.jp</a> )に連絡を頂ければ、オンライン(Zoom)による参加方法についてメールで個別にお知らせいたします。当ゼミ希望の学生は下記のゼミ説明会に少なくとも1回は参加してください。 第1回ゼミ説明会:11月19日(金)16:40-17:20 第2回ゼミ説明会:12月24日(金)16:40-17:20 第3回ゼミ説明会:1月7日(金)16:40-17:20					

## 経済・経営学演習（八木信一ゼミ）

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	人口減少社会における自治体地域政策と地方財政	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	八木 信一	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	とくになし		キーワード	持続可能な社会、自治体地域政策、地域づくり、地域内再投資力、地方財政	
全体の教育目標	広い意味で「地域」と主体的に関わることのできる人材を養成すること。		個別の学習目標	「地域」について「どうなるか」ではなく、「どうするのか」を具体的に提言できるようになること。	
<b>授業の概要</b> 人口減少と経済のグローバル化が進むなかで、日本においても「地方分権」、「地域主権」、そして近年では「地方創生」という名称のもとで、地域から持続可能な社会をつくるための諸改革が行われてきた。これらの成果については賛否両論あるが、地方自治体による地域政策（以下、自治体地域政策）のイノベーションと、それを促す分権型の地方財政制度の構築が大きなテーマとなっていることは見逃せない。そしてこのゼミでは、この大きなテーマに果敢に挑んでいく。そこではとくに、地方財政やそれに関わる自治体地域政策の実際と、これらの背後にある理論や思想との往復運動を絶えず試みることによって、演習参加者が自治体地域政策に関わる政策設計能力を養えることを目標としたい。					
<b>授業計画</b> 3年次前期は、地方財政と自治体地域政策に関わる文献を輪読する（今年度は地方財政の標準的なテキストに加えて、地域経済を中心とした地域づくりに関するテキストも取り上げる）。また、ゼミ論文の執筆準備も並行して行う。後期は、ゼミ論文の執筆を行う。4年次前期は3年次生と合同で演習を行い、後期は3年次生のゼミ論文を支援する役割等を担ってもらう。					
<b>授業の進め方</b> 文献輪読は①報告、②内容理解のための質疑応答、③議論（受講者数が多い場合はグループに分けて行う）、④教員からのコメント、⑤次回授業までに振り返りレポート（800字程度、3年次前期のみ）の提出、という順番でおこなう。ゼミ論文については、事前に論文を送付してもらい、それをもとに担当教員等がコメントを行う。			<b>教科書及び参考図書</b> <b>【教科書（前期輪読予定分）】</b> ・岡田知弘(2020)『地域づくりの経済学入門(増補改訂版)』自治体研究社。 ・林宜嗣(2021)『新・地方財政』有斐閣。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 規定の出席回数を前提にしたうえで、演習活動の発展に対する貢献を総合的に判断して評価する。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <u>このゼミの最大の企画は、3年次におけるゼミ論文である。</u> ゼミ生自らが自治体地域政策に関わるテーマを設定し、個人単位（受講者数が多い場合はグループ単位）で文献整理、統計分析、および現場調査に基づいてゼミ論文を作成する。また、この論文では政策課題の指摘だけでなく、それらの課題を現実的に解決するための政策提言も含んでもらう。そして、調査先等で報告を行い、研究成果を社会へ還元することを最終目的とする。					
<b>応募に当たっての注意</b> <b>【ゼミ選考について】</b> ①まず、Moodleにおける本演習のコース登録を必須とする。そのうえで、ゼミ選考は申込書（および面談を行う場合もあり）に基づいて行う。 ②申込書については記述された内容と分量で評価するが、「志望動機」と「これまでの大学（編入生の志望者					

については、卒業した高専や専門学校等でよい)生活で得たもの」は必ず含めること。

- ③面談(Zoomで実施)については、応募人数に関係なく、申込書の内容と分量だけでは意欲や能力等が十分に把握できない志望者に対してのみ行う。(なお、面談に応じなかった場合は不合格となるので、注意すること。)

【その他について】

- ①4年次生以上からの新規参加も認めるが、求める学習内容や学習水準は3年生と全く同じであり、ゼミ論文の執筆も義務づける。
- ②このゼミの特徴は、「地域という現場」と「書くこと」へのこだわりである。地域という現場における様々な課題にしっかりと向き合いたい人、そしてその過程を通して自ら考えたことや学んだことについて書くことで表現したい人は、とくに歓迎したい。これらは一見して地味であるかもしれないが、グローバル社会で求められる姿勢や能力と根底的なところでは共通するものである。なお、担当教員が抱いている「地域という現場」と「書くこと」へのこだわりについては、八木信一・関耕平(2019)『地域から考える環境と経済—アクティブな環境経済学入門』有斐閣を読んでほしい。
- ③地方財政に関わる内容を含んでいるので、公務員志望者も一定の関心があると思われるが、このゼミを受講することによって公務員の一次試験において優位に働くことは全くない。他方で、二次試験以降(論述試験および面接試験)においては、これまでのゼミ卒業生たちの就職実績を鑑みると、ゼミを通じた「厚みのある学習経験」が大きくプラスに作用するようである。しかし、このゼミの最大のアドバンテージは「公務員として何がしたいのか(また何ができるのか)を模索できること」にある。

# 経済・経営学演習／経済工学演習

( 前田真一郎 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	グローバル化と金融	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	前田真一郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし。		キーワード	金融システム、グローバル化、フィンテック、金融危機、金融規制	
全体の教育目標	研究を通して、自ら考える力を伸ばし、自分の意見を論理的に述べるようになる。		個別の学習目標	グローバル化する経済のなかにおける金融の役割について自ら考察する。研究成果報告を通じたコミュニケーション能力の向上を図る。	
<b>授業の概要</b> 金融の理論を踏まえたうえで、現代において世界的に進んでいる事象（例えば、シェア経済やキャッシュレス決済など）をもとに、その広がりや金融との関係を幅広い視点で見えていく。演習では、各グループでの研究発表および全体討論を行う。そのうえで、研究成果をプレゼンテーション大会等で発表する（発表する大会等は、ゼミで話し合いのうえ決定する）。 演習は、3年生と4年生とは別に行うが、必要に応じて合同とすることもある。					
<b>授業計画</b> 第1回 ガイダンス：ゼミの進め方とゼミでの研究について話し合い、目的意識を共有する。 第2回以降 研究発表・討論：各グループでの研究発表および全体討論を行う。					
<b>授業の進め方</b> いくつかのグループに分かれてテーマを選び、研究発表・討論を行います。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 必要に応じて指示します。 【参考書】 必要に応じて指示します。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の成績100%。 （4年時は、平素の成績30%、ゼミ論文70%。）			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> ゼミ生の自主性を重視します。グループごとの発表は、質疑応答の時間を長く設けて、ゼミ生同士で議論し発展させていきます。日本とアメリカでの経験も踏まえ、グローバルな視点で研究を進められればと思っています。また親ぼくを深めるため、スポーツやゼミ合宿を行います。合宿等を通じてゼミ生全員が親しくなり、卒業後も長い付き合いができればよいと思っています。					
<b>応募に当たっての注意</b> ゼミ説明会(対面形式)を2回に分けて行います。ゼミ説明会は、自由参加とします(途中入出場可)。 また、来学が難しい方は、オンライン形式でのゼミ説明会に参加可能とします。オンライン形式(Zoom)でのアクセス方法等は、Moodle上の「2021年度後期・他・経済・経営学演習(前田ゼミ)」に記載してあります。 なお、説明会には、教員に加えゼミ生も参加し、個別に質疑応答の時間も設けます。いずれの説明会にも参加できない場合は、メール(maeda@econ.kyushu-u.ac.jp)のうえ、個別相談に応じます。					

## 経済・経営学演習 ( 岩田 健治 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	現代の国際金融	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	岩田 健治	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	基本科目「国際経済学」を履修していることがやや望ましい。3-4年通しの履修を基本とする。		キーワード	国際金融、金融グローバル化、金融危機、国際通貨、金融・通貨統合、Fintech	
全体の教育目標	国際金融に関する基本的視座の獲得。グループ研究を通じたコミュニケーション力の向上。		個別の学習目標	国際金融の現実的・具体的諸問題の発見と独自の分析。	
<b>授業の概要</b>					
<p>本演習では、現代の国際金融について学ぶ。演習は基本的に3-4年別個に進めるが、必要に応じて合同とすることもある。3年次では、国際金融について書かれたテキストを読み、基礎的知識を身につける。その上で、秋に開催される国際金融インターゼミナールに向け、複数のテーマを設定し、チーム毎に論文作成やプレゼンテーションの練習を行なう。4年次では、経済学の古典の講読を行いながら、3年次での経験をもとにゼミ論文を完成させる。</p>					
<b>授業計画</b>					
第1回 ガイダンス					
第2回～ テキストの講読およびインターゼミ・ゼミ論文に向けた準備					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
報告者、質問者、司会者を順番に割り当てて、順次テキストを読み進める。			【教科書】第1回目のゼミで指定する。 【参考書】ゼミの進行に従い随時紹介する。		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
3年生：平素の成績 100%。 4年生：平素の成績30%、ゼミ論文70%。			演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 金沢大学の国際金融ゼミとのインターゼミなど、企画が充実した、やりがいのあるゼミです。</li> <li>* インターゼミや就職活動では、頼れる先輩が親身になってサポートしてくれます。</li> <li>* コンパ、合宿などを通じて、3-4年生間の親睦を深めます(ただし新型コロナ終息状況を見極めて実施)。</li> <li>* ゼミ活動の詳細は Facebook <a href="https://www.facebook.com/k.iwata.seminar">https://www.facebook.com/k.iwata.seminar</a> (九州大学経済学部 岩田ゼミナール) で知ることができます。</li> <li>* 教員の研究教育プロフィール: <a href="https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K000335/index.html">https://hyoka.ofc.kyushu-u.ac.jp/search/details/K000335/index.html</a></li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b>					
<p>* 採用に当たっては志望理由書を重視します。グローバルな金融に関連するトピックに少しでも興味がある人は、オープンゼミやゼミ説明会に積極的に参加し、是非応募して下さい。文系4学部副専攻プログラムを受講している他学部生も積極的に受け付けます。</p> <p>【ゼミ説明会】Zoomにて行います。応募を考えている人は是非参加してください。都合により参加できない人のために、Zoom記録を別途配信します。岩田 <a href="mailto:iwata@econ.kyushu-u.ac.jp">iwata@econ.kyushu-u.ac.jp</a> まで連絡いただければ個別の質問も受け付けます。</p> <p>【オープンゼミ】2021年12月9日(木)、2021年12月23日(木)の5時限にZoomにて行います(自由参加、出入り自由)。</p> <p>★ゼミ説明会およびオープンゼミのZoomのミーティングIDや、説明会Zoom記録の取得先URLは、経済学部ホームページ「教務・学生支援」⇒「ゼミナール関連情報」に掲載します。お気軽に参加ください！</p>					

# 経済・経営学演習

( 清水一史 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	世界経済と東アジア	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	清水 一史	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	できれば経済の基礎科目や国際経済学を履修しておいてほしい。		キーワード	世界経済、東アジア、貿易、投資、経済統合、経済発展、工業化、ASEAN 経済共同体 (AEC)、CPTPP (TPP11)、RCEP、米中貿易摩擦、米中対立保護主義	
全体の教育目標	世界経済と東アジア経済を総合的に理解する。現実の経済を理解出来るようになることを目指す。		個別の学習目標	世界と東アジアの貿易・投資、経済統合、東南アジア・NIES・中国の経済発展を理解する。	
<b>授業の概要</b> 世界経済や東アジア経済について、数冊のテキストを扱い皆で議論します。最近扱ったテキストとしては、石川幸一・清水一史・助川成也編『ASEAN経済共同体の創設と日本』文真堂、石川幸一・馬田啓一・清水一史編『アジアの経済統合と保護主義』文真堂、木村福成編『これからの東アジア』文真堂、石川幸一・朽木昭文・清水一史編『現代ASEAN経済論』文真堂、山澤逸平・馬田啓一・国際貿易投資研究会編『通商政策の潮流と日本』勁草書房、末廣昭『キャッチアップ型工業化論』名古屋大出版会などがあります。後期には4年生の卒業ゼミ論文報告や3年生の自由研究報告等を行います。ゼミは3・4年合同で行います。また院生も助言してくれます。					
<b>授業計画</b> 第1回はガイダンスで、ゼミの進め方やゼミでの研究について解説します。またテキストを選定し今後の計画を決定します。以降については、第1回の際に参加学生と相談の上、決定します					
<b>授業の進め方</b> テキストの報告者を毎回数人割り当てて、報告者は、報告レジュメを作成し、論点を提示します。またテーマに即して資料を添付します。その後、報告者の論点並びに各自の論点について、皆で議論します。			<b>教科書及び参考図書</b> 石川幸一・馬田啓一・清水一史編『岐路に立つアジア経済』文真堂、石川幸一・馬田啓一・清水一史編『アジアの経済統合と保護主義』文真堂、石川幸一・清水一史・助川成也編『ASEAN 経済共同体の創設と日本』文真堂、清水一史『ASEAN 域内経済協力の政治経済学』ミネルヴァ書房等。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の成績で評価します。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> *オープンゼミは、2021年12月21日(火)17時20分～18時20分に対面(予定)で行います(E105教室)。出入り自由です。また、オープンゼミの前には、ゼミ説明会を対面(予定)で行います(連続での参加も薦めます)。ゼミの説明会は、もう一度行います(こちらは対面&Zoomの予定です)。実際に見てみると色々な様子が分かるので、対面での説明会とオープンゼミの参加を薦めます。先輩も、親身に相談に乗ってくれます。ゼミ説明会の案内やURL等は、経済学部HPの「ゼミナール関連情報」を見て下さい。 *ゼミでの報告と対話、ゼミの行事等を通して、将来に向けても役立つ事をしっかり学べるゼミと思います。 *勉強や就職に関しても諸先輩や院生が支援してくれます。					

\*大学院への進学を希望する人も是非志望して下さい。

\*ゼミの行事としては、他大学との合同ゼミ、工場見学、バーベキュー大会、同窓会等を開催しています

\*他大学との合同ゼミでは合同ゼミ合宿を行います。2020年度は「現代世界経済の諸問題」をテーマとして、「保護主義—トランプショックとその後—」、「メガ FTA と ASEAN—RCEP を中心に—」、「COVID-19 と世界経済」、「GAFA—巨大 IT 企業の脅威とデータ保護主義—」、「自然災害による経済への影響」等の合同セミナーを行いました。

\*他大学の先生、外務省の方や JICA (国際協力機構) 等の方をお呼びしての講演等も行います。

\*卒業生をも含めて、同窓生のつながりも重視し、同窓会も定期的に開催しています。

#### 応募に当たっての注意

\* ゼミ説明会にできるだけ参加しておいて下さい (もし選抜が必要になった場合についても解説します)。

\* ゼミ選抜基準では、志望理由と動機・やる気を重視します。

# 経済・経営学演習 ( 石田ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	グローバルビジネスと日本経済	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	石田修	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件			キーワード	デジタル経済、反グローバル化、米中分断プラットフォーム、	
全体の教育目標	<input type="checkbox"/> 人の意見を聞く力、プレゼンテーション力、グループ討論力など「 <u>社会人基礎力</u> 」の向上		個別の学習目標	<input type="checkbox"/> デジタル化・グリーン化のなかでのグローバル・ビジネス環境の急激な変化を理解し、日本経済の現状を考えてみる	
<b>授業の概要</b>					
<input type="checkbox"/> プレゼンテーションや討論などの能力を引き上げる練習の「場」を提供。練習で失敗しても大丈夫 <input type="checkbox"/> 3・4年生合同で、4限目と5限目(例年、1時間報告、休憩を入れて、1時間討論の2時間) <input type="checkbox"/> 指定したテキストになかでは2年間で2回読むことで深く理解できるように工夫。なかでも、とても示唆に富む古典であるペンローズの『企業成長の理論』を読み、現代のビジネスや経済へ応用できるアイデアを探る <input type="checkbox"/> 現代的なテーマを選択 前期は国際経営・国際経済の基本知識に関するテキスト 夏合宿では①日本・中国・アジア、②アメリカ、③EUという3地域動向と、3地域の相互関係をグループ学習 後期は、DX、グローバル・バリュー・チェーンなどグローバル・ビジネス、世界経済の重要なテーマ					
<b>授業計画</b>					
<input type="checkbox"/> 第1回 ガイダンス、ゼミの進め方と年間スケジュールを確認 <input type="checkbox"/> 第2回以降、報告者と司会者を決めて、討論を進めます。多面的グローバルビジネス・世界経済現象をとりあます。報告を基にした、グループ討論も試みます					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
<input type="checkbox"/> 報告者と司会者の2名で担当のゼミの報告と討論の企画を行い、責任をもって進行 <input type="checkbox"/> 自分の考えを、相手に伝える能力を磨くために、演習の最後には、問題点と改善点を点検 <input type="checkbox"/> 最新のテーマを相談しながら取上げる			<input type="checkbox"/> 石田修「生産システムのグローバル化——物理空間とデジタル空間の視点から」『一橋ビジネスレビュー2021年夏号』 <input type="checkbox"/> アレックス・モサド『プラットフォーム革命』英治出版、 <input type="checkbox"/> 森川潤『グリーン・ジャイアント 脱炭素ビジネスが世界経済を動かす』、 <input type="checkbox"/> ハスケル他『無形資産が経済を支配する』		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
<input type="checkbox"/> 平素の成績(プレゼンテーションの内容、司会の進め方、討論の積極性などを評価)			<input type="checkbox"/> 『日本経済新聞』や『エコノミスト』『日経ビジネス』『東洋経済』『週刊ダイヤモンド』などの経済誌を読むように心がけてください		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
<input type="checkbox"/> 状況が許せば夏のゼミ合宿を行います。世界経済の構造をアジア、米国、EUの地域および地域間駅に目を向け、金融と生産の両面から、広い視野の思考訓練。そのあとは、バーベキュー・小旅行。					
<b>応募に当たっての注意</b>					
<input type="checkbox"/> 1年間限定のゼミです <input type="checkbox"/> ゼミ説明会はZoomで説明します					

経済・経営学演習／経済工学演習

( 篠崎彰彦 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	情報化とグローバル化の経済学	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	篠崎彰彦	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	誠実な意欲と熱意		キーワード	情報技術、グローバル化、経済発展	
全体の教育目標	未知の問題に直面した際、大学で経済学を学んだ者にふさわしい思考と判断ができるようになる!		個別の学習目標	情報技術の経済効果を念頭に、実態把握に必要な情報・資料収集、先行調査の整理法、基本的統計処理方法、ブレイン・ストーミング型ディスカッションなどのスキルを身につける。	
<b>授業の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミでは、「情報化」が企業、産業、経済にどのような影響を与えているか、現実の動きにも目配りしながらグローバルな視点で理解を深め、思考力と分析力を高めます。</li> <li>・まず、情報の収集方法と整理の仕方、実態の把握と経済学的な理解の方法をブレイン・ストーミング型のディスカッション(ディベート型ではありません)で身につけていきます。その上で、レポート・論文の作成方法、統計的事実の捕捉と処理の方法などを学んでいきます。</li> <li>・原則として年次別に毎週4-5限目連続で進めますが、随時3-4年合同ゼミを行い、交流を深めます(院生も参加)。</li> </ul>					
<b>授業計画</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次は、情報や文献資料の収集方法、基本的な統計処理法などを身につけ、情報経済、企業経済の基本概念と情報化やグローバル経済の現状について、ゼミ生全員が学識を共有できる演習を重視します。この過程で複数の論文、入門書、専門書、報告書の輪読を行う予定です(日本語文献と英語文献)。</li> <li>・4年次は、ゼミ論集の完成を目標に、各自で具体的なテーマを設定し、分析、報告、執筆の作業を主体的に進めます。</li> <li>・演習を通じて根拠に依拠した明快な説明力と振る舞い力(課題設定力・資料作成力・即応力・対話力)を身につけます。</li> </ul>					
<b>授業の進め方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年次では、共通のトピックスについて、各自がレジュメを作成し、ゼミ生全員で多様な観点からディスカッションしていきます。言語は日本語です。</li> <li>・基本文献や資料に加えて、最新の経済問題も積極的に取り上げ、現実の動きから本質へと理解を深めます。</li> <li>・エクセルを使った初歩から学ぶデータ処理方法の実習も一部行う予定です。</li> <li>・最終的には、全体テーマの中で各自が興味と関心を深めた内容の調査・研究に取り組み、4年次でゼミ論を完成させます。</li> </ul>			<b>教科書及び参考図書</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜指定します。日本語、英語の文献や資料を用います。</li> <li>・昨年度は『情報通信白書』『情報技術革新の経済効果』『初歩からの計量経済学』<i>Digital Economy Report 2019: Value Creation and Capture</i>, UNCTAD などを取り上げました。</li> </ul>		
<b>試験・成績評価の方法等</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価は、①事前準備の取り組み姿勢、②報告者としての発表姿勢、③ディスカッションへの参加姿勢など平素の貢献度合いを全面的に考慮します。</li> <li>・そのため、演習では日本語による対面での即応力が求められます。</li> </ul>			<b>その他</b> <p>演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。</p>		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> (コロナウィルス感染症の状況次第で変わりますが、平常の場合は下記のとおり) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミの運営は、年次ごとの個性と自主性を尊重します。前後の年次のゼミ生との交流、フィールドワーク、自主ゼミ(サブゼミ)、懇談会(学期の節目の宴会)、合宿など、ゼミ生による主体的な活動を奨励しています。</li> <li>・大学入学後、少しダラけた自分を反省しつつ、これから少しは勉学面を充実させて変化したい! と思っている学生にもってこいのゼミです(今の延長線上で成長しなくてもいい、「変化」することが大切、それが「発展」につながります)。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習参加希望者は、募集期間中(1月6日～13日)に個別に面談の機会を設けます(研究室[EE-513]もしくはZoom)。</li> <li>・参加希望理由などを述べてください。正確な日時や方法はゼミナール関連情報の掲示板等で別途アナウンスします。</li> <li>・オープンゼミ(予定)は、期間中随時行いますので、ゼミナール関連情報の掲示板を参照の上、自由に参加して下さい。</li> </ul>					

# 経済・経営学演習／経済工学演習

( 水野敦子 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	途上国経済の実態と課題	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	水野敦子	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	開発経済に関心を有すること		キーワード	開発経済、農村開発、開発政策、格差・貧困、産業化、労働力移動	
全体の教育目標	開発経済の知識、理解を深めるとともに、グループ学習や議論、報告を通じて具体的課題の考察力、ディベート力、発信力の向上を目指す		個別の学習目標	途上国の経済開発に関する基礎的理論を総括的に学ぶとともに、開発途上国の具体的開発課題について、自ら研究課題を設定し考察を深める	
<b>授業の概要</b> 3年生では、まず開発経済の基本的な理論や知識の習得を目指し、テキストを精読します。そのうえで、参加者の関心に応じて、開発途上国が直面している開発課題について研究課題を設定し、グループで研究を行います。 4年生は、開発経済に関する学術論文を輪読するとともに、個別研究について順に発表し、議論を深めます。 研究成果は、3年生はグループ研究レポートに、4年生はゼミ論文にまとめます。 3、4年生合同を基本としますが、適宜別に行うこともあります。					
<b>授業計画</b> 3年生：(1～10回) 開発経済に関する基礎的文献の輪読。 (11～20回) グループ研究、学術論文の輪読。 (20～30回) 研究報告、研究レポートの作成。 4年生：(前期) 学術論文の輪読、研究課題の設定。 (後期) 資料の収集とその分析、ゼミ論文の作成					
<b>授業の進め方</b> テキスト輪読、グループ・個別研究は、報告者を順番で割り当てます。学生諸君の発表、討論が中心。また、適宜学外での活動を実施します。			<b>教科書及び参考図書</b> 教科書】適宜指定  【参考書】適宜指定		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 輪読の報告20%、ゼミ議論への貢献20%、グループおよび個人研究30%、研究レポート、ゼミ論30%			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> グループ研究の完成、ゼミ論の作成は単位取得の必須条件です。ゼミでの能動的な学びによって、授業では身に着けることができない能力を向上させることができます。その他のゼミ活動においても、学生の主体的な企画を歓迎します。2020年度、2021年度は、新型コロナウイルス感染症対策のために実施できませんでしたが、例年9月にゼミ合宿を行っています。12月には、インナーゼミ(堀井・鷺崎・北澤ゼミと共催)に参加します。					
<b>応募に当たっての注意</b> 希望者は、ゼミ説明会に出席してください。やむを得ず、出席できない場合は、応募前に必ずメールにて連絡してください。 申込書には、志望動機、希望進路を記載してください。応募者には、簡単な面談を行います(Zoomの予定)。応募多数な場合は、成績、志望理由、および面談で総合的に判断し選抜を行います。					

# 経済・経営学演習／経済工学演習

(藤井 秀道 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	企業のESG経営とSDGs	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	藤井 秀道	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	企業のESG経営及び国内外におけるSDGsに向けた取り組みに興味・関心を持つ学生		キーワード	ESG経営、持続可能な開発目標(SDGs)	
全体の教育目標	経済学的な視点から物事を批判的に考察し、代替案・改善案を提案できる能力を身につける。		個別の学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題設定能力の育成</li> <li>2. 情報収集能力の育成</li> <li>3. 質問する能力の育成</li> <li>4. プレゼンテーション能力の育成</li> </ol>	
<b>授業の概要</b> ・ゼミでは「ESG経営」及び「SDGs」をキーワードとした調査テーマについて、理解を深めていきます。特に「ESG経営」の調査では、企業の財務データや環境・社会・ガバナンスに関連したデータセットを活用し、企業の競争力を高める上での課題や具体的な取り組みについて、調査・分析を行います。 ・演習を通じて卒業研究テーマを設定し、研究目的及び研究仮説を構築します。研究仮説の検証を進めるために、様々なデータ( <a href="#">日経NEEDS</a> 、 <a href="#">東洋経済CSR企業総覧</a> 、 <a href="#">World Development Indicators</a> )を利用します。データの加工・分析を行う上で必要となるPCスキルの向上についてもゼミの中でサポートします。 ・ゼミは3年生、4年生、大学院生が合同で行います。					
<b>授業計画</b> 3年生：日経ストックリーグ( <a href="https://manabow.com/sl/">https://manabow.com/sl/</a> )へ参加し、ESGもしくはSDGsに関連するテーマでコンテストに参加(2チームで参加予定)。コンテスト終了後、卒業研究のテーマを設定し、分析を進める。 4年生：研究課題の設定⇒先行研究調査・データ収集・分析の実施・考察⇒最終報告会で報告を行う。					
<b>授業の進め方</b> 演習形式で行います。受講生による調査内容の報告及び質疑・討論を中心に進めていきます。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 適宜指定します。 【参考書】 適宜指定します。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の成績で評価します。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> ・令和3年度では、Zoom 飲み会などを実施しています。今後は卒論最終報告会を予定しています。 ・対面でのイベントが可能になった場合には、忘年会、歓送別会、他ゼミとの合同BBQ等を企画します。 ・学生の留学に対しては柔軟に対応します(留学中にメール、LINE、Zoomによる遠隔指導を行います)。 ・4年生はゼミ論文を作成し、最終報告会(1月下旬 or 2月上旬)で報告してもらいます。					
<b>応募に当たっての注意</b> ・ゼミ説明会への参加は必須です。⇒履修している授業との重複や就職活動などでやむを得ず参加できない場合は <a href="mailto:hidemichifujii@econ.kyushu-u.ac.jp">hidemichifujii@econ.kyushu-u.ac.jp</a> にその旨、連絡してください。個別に対応します。 ・オープンゼミは12月3日5限目、12月17日の5限目に実施予定です。(自由参加、出入り自由)。 ・応募多数で選抜となった場合には、志望理由及び調査テーマへの興味・関心の度合いを重視します。					

## 経済・経営学演習 ( 與倉 豊 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	経済地理学	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	與倉 豊	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	地域経済や経済地理的現象に高い関心がある者を歓迎する。		キーワード	地方創生, イノベーション, 都市, 文化産業, 創造産業,	
全体の教育目標	経済地理学関連の学術論文の精読, レジюме作成, 報告, ディスカッションを通じて, 現代の地域経済に関する実態の理解を深める. このゼミでは卒業論文の提出を必須としています。		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献研究により, 独自の研究テーマを探索する.</li> <li>・基礎的な統計資料の収集・分析により対象地域・産業の概要を把握する.</li> <li>・実態調査, 論文作成</li> </ul>	
<b>授業の概要</b>					
<p>◇ゼミでは地域経済や産業地域をめぐる現代的テーマ(題材)に関して, 「経済地理学」を土台とした研究を遂行する. 経済地理学は経済活動の地理的な側面に光を当てる学術分野であり, 対象地域も対象産業も多様である. 担当教員は主に製造業の研究を専門としているが, ゼミで取り扱う産業は農業から商業, 観光業まで幅広く, また対象地域も農山村から大都市まで含まれる.</p> <p>◇ゼミは3・4年生合同で行う. 3年生は事前に指定する経済地理学関連の学術論文に関して, レジюмеを作成し, 報告する必要がある. また基礎的な統計資料の収集・分析など, 地域分析の手法について指導する. なお, 年度末のゼミ最終回を締め切りとして, 地域分析レポートを提出する必要がある.</p> <p>◇4年生は各自で設定する研究テーマに関連した文献報告を行う. 対象地域・産業の調査を行い, 研究の進捗状況について報告する. 以上の成果として, 各自がゼミ論文を提出し, 年度末に発表会を実施する.</p>					
<b>授業計画</b>					
<p>第1回 ガイダンス: ゼミの進め方, 文献探索の方法, レジюмеの作り方について</p> <p>第2回以降 初回ガイダンスの指示に従い, 文献報告, 研究の進捗状況の報告を行う.</p> <p>ゼミ最終回 4年生によるゼミ論文の発表会</p>					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
<p>・演習形式で行う. 文献報告においては, 報告者以外にも事前に取り上げる論文を読み, 論文に関する疑問, コメントなどを Moodle にて提出します. 参加者全員が論文を読んでくることを前提としてゼミを進めます.</p>			<p>2022年度は2冊の教科書を用いる予定である.</p> <p>①半澤誠司ほか編(2015)『地域分析ハンドブック』ナカニシヤ出版.</p> <p>②松原宏編(2022)『新経済地理学概論』原書房.</p>		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
ゼミでの報告, ディスカッションへの参加, 地域分析レポート, ゼミ論文をもとに成績評価を行う.			演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる.		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
ゼミ生はオリジナルな研究の成果として, 4年次にゼミ論文(卒業論文)を執筆する. ゼミ論文は「與倉ゼミ卒業論文集」として製本をし, 関係各所に配布している. 過去の卒業論文の題目は下記の HP を参照してください. <a href="https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~yokura/">https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~yokura/</a>					
<b>応募に当たっての注意</b>					
<p>◇ゼミ説明会は2回(ハイブリッド形式)開催しますので, どちらかに出席してください. やむを得ない理由により出席できない場合には, 担当教員にメールにてお知らせください. 個別に対応します.</p> <p>◇申込書には, 現段階で興味関心ある事柄や, ゼミで勉強したい内容, 研究テーマなどを記載してください. 選抜が必要な際は成績とともに申込書の記載内容も参考にします.</p> <p>◇オープンゼミは12月23日に行います(参加, 入退室ともに自由). 教室の収容人数の関係上, ゼミ生以外は Zoom 参加とします. URL はゼミ説明会と同様に別途指示します.</p>					

## 経済・経営学演習／経済工学 演習 (堀井伸浩 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	中国産業の実証分析	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	堀井伸浩	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし。		キーワード	中国経済、日中産業比較、実証分析、フィールドワーク	
全体の教育目標	論理実証主義に基づいた研究分析手法を習得。また中国人留学生とのグループ研究を通じ、生きた中国理解を促す。		個別の学習目標	中国の産業分析を通じて、中国の経済発展の動態に関する知見を得る。	
<b>授業の概要</b>					
<p>本講義の教育目標は「仮説に沿ってデータを収集・加工し、分析結果をプレゼンテーションする能力」を学生諸君に身に付けてもらうことである。ゼミを通じ、仮説を導き、それをデータで裏付ける科学的な論理実証主義手法を習得できるように、授業計画を考案している。こうした分析能力は研究者を目指す学生諸君はもとより、社会に出て実務に携わる諸君にも有用なスキルとなると確信している。また躍動する中国経済についての実践的な知識の習得も目指す。</p> <p>ゼミ活動は学部生と大学院生（研究生）とがチームを組んで進めるグループ研究を軸に進める。大学院生の多くは中国人留学生であり、そのためゼミは日中の学生による国際的な知的共同作業の場となる。R3年度は「石油産業」「たばこ産業」「航空機製造業」「鉄鋼業」「広告代理店」「化粧品産業」「ごみ発電産業」「観光業」などのテーマについてグループ研究を行っている。新たにゼミに入る新3年生は上記の現在動いているグループのテーマにとらわれることなく、自らの希望に沿って新たなグループを立ち上げることを奨励している。なおゼミは3-4年（および大学院生）合同で行う。</p>					
<b>授業計画</b>					
3年次：					
4月～7月 オリエンテーション、中国経済・産業分析・グループ研究の設定テーマに関連する文献の輪読					
8月 ゼミ合宿に向け、グループごとにリサーチワークに関するコンサルテーション ゼミ研修旅行（行き先中国、日数7日程度。グループ研究のフィールドワークとの位置づけ）					
11月 ゼミ合宿（国内2泊3日）					
12月 北澤・鷺崎・水野ゼミとの研究発表会					
4年次：					
4月～7月 学生諸君と相談して決める					
8月 卒業（ゼミ）論文作成に向けたコンサルテーション					
9月 ゼミ研修旅行（詳細は3年次の説明を参照）					
11月 ゼミ合宿にて卒業（ゼミ）論文構想発表					
11月以降、随時卒業（ゼミ）論文指導					
12月 神戸大学梶谷ゼミとディベート討論会					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
学生諸君の発表、討論が中心。課外活動（ゼミの準備やゼミ合宿）もあり、原則出席が求められる。			適宜、別途指定する。		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
平常点を50%、研究発表や卒業（ゼミ）論文を50%で評価。			演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		

### ゼミの企画、その他特記事項

- 1) ゼミは週1回の本ゼミと不定期開催(おおむね月に1回)のグループごとにリサーチに必要な文献を輪読するサブゼミで進められる。アウトプットは、ゼミ合宿時のパワーポイント、卒業時に作成するゼミ論文となる(いずれもグループワークによる共同作成)。
- 2) 毎年夏に中国の研修旅行を任意参加で挙げてきた。H21 年度は大連・瀋陽・上海、H22 年度は山西省・内蒙古、H23 年度は湖北省・河南省・北京、H24 年度は山西省・江蘇省(南京、蘇州)・上海を巡った。しかし日中関係の悪化から、H25 年度は海南省のみとなり、日数も大幅に縮減せざるを得ない状況となり、H26 年度と H27 年度は休止となった。研修旅行は企業調査など得難い学習機会であるとともに、ゼミ生同士が絆を強める良い機会となっているので極力実施したいと考えており、再び H28 年度は天津・北京、H29 年度は広東省(深セン)、H30 年度は上海、R1 年度は天津で再開が可能となった。しかし R2 年度および R3 年度は新型コロナで日中とも入国制限が講じられたため、実施が不可能となった。新型コロナの影響が消失し、日中間の入国制限が撤廃された後は、日中関係が極度に緊張化していないのが前提となるが、再び中国での研修旅行を再開したい。
- 3) ゼミ合宿は国内で 2 泊 3 日で行うのが通例である。リサーチ成果の報告を行う真面目な合宿であるが、グランドゴルフをやったり、アフターゼミも色々と思い出深いものがあります。
- 4) 北澤・鷺崎・水野ゼミと共同研究発表会を平成 21 年度より実施しており、R3 年度も 12 月に実施予定。また神戸大学の梶谷ゼミとディベート形式のインゼミを実施している。
- 5) ゼミの詳しい活動などについては、<http://www.en.kyushu-u.ac.jp/horii/top.html>を参照(でも最近全然更新できてません、すみません)。あるいはメールで問い合わせ下さい。

### 応募に当たっての注意

ゼミ選抜基準は志望理由重視です。他の条件は何もありません。このゼミに対して何を期待するか、自分は何を貢献できるか(売り込めるか)を記述して下さい。

ゼミ説明会は入ゼミ後のミスマッチなどを未然に防ぐためにも極力参加してもらいたと思いますが、ゼミ説明会に参加していないことが選考に影響を及ぼすことはありません。ゼミ説明会に参加できなかった学生さんでゼミのことについて不明な点、聞きたい質問などがあれば遠慮なくメールを下さい。

オープンゼミは実施しません。

経済・経営学演習／経済工学演習

( 安田 聡子 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	産業技術の誕生・普及の分析	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	安田 聡子	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	新技術の誕生・普及、知識の商業化、イノベーションのエコシステム	
全体の教育目標	新技術誕生・普及により経済効果が発生し、社会に影響が及ぶまでの長い過程を、複数の局面から観察・分析する。文献精読、報告、討論の繰返しで分析能力とプレゼン力を高める。		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 良質な最新情報に毎日触れて情報感度を高める。</li> <li>・ 文献精読により調査・分析の核となる理論を習得する。</li> <li>・ プレゼン・討論・レポート作成により分析結果を説得的に述べる術を磨く</li> </ul>	
<b>授業の概要</b>					
<p>新技術が誕生して財（製品・サービス）となり、それが普及して経済価値を生み出し、企業経営や人間生活にまで影響を及ぼす長い過程を「イノベーション・プロセス」と呼びます。このプロセスを「知識創造」、「価値創造」、「価値獲得」という3局面に分け、各局面固有の問題について調査・分析を加えるのがイノベーション研究です。有名な「オープン・イノベーション」論は知識創造局面におけるマネジメントを論じたものです。ビジネスパーソンに人気の「破壊的イノベーション」は価値創造と獲得に関する議論です。</p> <p>担当教員自身は「知識創造－価値創造」の境目に注目し、モビリティ（機械や人材の移動）が技術の誕生と普及にどのような影響を与えているのかを調査していますが、多様なバックグラウンドを持つ研究者との交流を通して常にイノベーション・プロセス全体を念頭に置きながら研究を進めています。</p> <p>また、最新技術を使いこなして楽しく生活する学生—たとえば「朝一の授業には遅刻するが、インスタのアップのためには朝7：30に起きる」学生、「googleフォームでパパッとアンケートを取って、サクッとプレゼンを仕上げる」学生、「ゼミ宣伝のためにTikTokで踊ろう」と教員を強引に誘う」学生、etc.—を観察しながら、技術と人間の関係を観察するのが趣味です。ゼミ活動を通して技術と経済システム、技術と社会・人間活動に関心を持ち、第4次産業革命で活躍する高度人材になってほしいと願っています。</p> <p>ゼミは3・4年合同で行います。事前に指定する文献を読み、その内容を報告した後に討論し、さらにそこで学んだことを応用しながら現代的な事象を自分の言葉で解説する、ということを繰り返します。</p> <p>評価は「毎回の準備状況」、「ゼミへの知的貢献」、「期末レポート（あるいは卒業論文）」という3つの評価軸に基づきます。「期末レポート（あるいは卒業論文）」については、分析や記述が充実していることはもちろん重要ですが、「意義ある（そして自分に合った）テーマを発見できるか」を最も重視します。</p>					
<b>授業計画</b>					
<p>第1回目 ガイダンス</p> <p>第2回目以降 初回のガイダンスの指示に従い、文献輪読、プレゼン、討論を進めていく</p> <p>ゼミ最終回 期末レポート（あるいは卒業論文）の報告会</p>					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
<p>演習形式で行います。文献報告の際には、報告者以外の学生にも簡単な概要を提出してもらいます。その後の討論では、活発な発言、鋭い質問、風変りなコメントなどの Class Participation を求めます。</p>			<p>【教科書】 後藤晃（2016）『イノベーション：活性化のための方策』、東洋経済新報社。 一橋大学イノベーション研究センター（2017）『イノベーション・マネジメント入門【第2版】』、日本経済新聞社。</p> <p>【参考書】 M.A. Schilling (2019). <i>Strategic Management of Technological Innovation</i> (6th), McGraw Hill.</p>		

<b>試験・成績評価の方法等</b> 毎回の準備状況：40%、ゼミへの知的貢献：20%、期末レポート（あるいは卒業論文）：40%	<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。
---	--

### ゼミの企画、その他特記事項

九州大学に赴任して初めてのゼミですので、ゼミ生の希望や個人特性を考慮しながらフレキシブルにゼミを運営したいと思います。ただし、articulation(明瞭に発言すること)の訓練は繰り返し行います。何かを明瞭に述べるためには、発言を歓迎する雰囲気や聞き手のことを理解するチャンスも必要です。そうした雰囲気づくりのためにも、コンパやゼミ旅行などを積極的に行いたいと思います。

また前任校では、学生の強い要望があり、学外のビジネスプラン・コンテストに参加したり、学内でビブリオバトルを開催したりしていました。みなさんもそうしたイベントへの参加を希望するのであれば、積極的に指導を行っていきたいと思います。

### 応募に当たっての注意

- ・ 履修条件は特に設けませんが、講義科目の「産業技術」を同時に履修することが望ましいです。
- ・ ゼミ説明会は極力参加してください。お互いに初対面ですので、入ゼミ後のミスマッチを防ぐという意味でも説明会に参加し、希望を述べたり質問をしたりすることが重要です。
- ・ 質問がある方は、[yasuda-satoko@kwansei.ac.jp](mailto:yasuda-satoko@kwansei.ac.jp)へご連絡ください。件名には必ず「九州大学ゼミの件」とご記入の上、大学のメールアドレスから送信してください。フリーメールやキャリアメールを使うと、受信できないこともあります。
- ・ 応募多数で選抜となった場合は、所定のテーマに関するエッセイ(2000字程度)をもとに選抜します。文章の書き方が適切な応募者を対象として、「なるべく多様な学生が混ざるように」選考します。
  - 優秀な応募者が多ければ、普通の応募者が相対的に有利になります。生真面目な応募者が多ければ、ユニークな応募者が相対的に有利になります。逆もまた然りです。

## 経済・経営学演習 (鷺崎俊太郎ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	日本経済史と空間経済学	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	鷺崎 俊太郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経済史Iの履修が望ましい		キーワード	日本経済史・都市経済・長期経済分析	
全体の教育目標	現代都市経済の諸問題を、歴史的経緯と照らし合わせながら、分析できる能力を身につける		個別の学習目標	ライブラリー、ICT、ロジカル・シンキング、プレゼンテーション、論文などリテラシーの養成	
<b>授業の概要</b> ・徳川期～近代の日本経済について、現代の諸問題と照合しながら分析できる能力を身につけます。とくに、 <b>都市</b> や <b>空間</b> 、 <b>土地不動産</b> における <b>社会経済メカニズムの発生源や問題の推移</b> などを、長期時系列的な視野を持って分析、検討していきたいと思っています。 ・通常のゼミは、①：テキストの輪読、②：半季に1度は校外に出かけてフィールドワーク (FW) 、③：①～②の成果をもとに各回のテーマに沿ったプレゼンテーション (PR) を行います。					
<b>授業計画</b> <b>3年次 【例年の実績 (オンラインの制約がない時)】</b> 4月 新歓 Zoom コンパ、輪読 5月 輪読、インゼミテーマ報告 6月 輪読、インゼミ前期中間報告 7月 インゼミ前期最終報告 9月 長崎合宿と鹿児島合宿を隔年で開催 (ゼミ生のリクエストで他所も OK) 10月 輪読、インターゼミ向けリハーサル、 11月 インターゼミ向けリハーサル 12月 六大学インターゼミ (関西大学西村ゼミ・福岡女子大学櫻木ゼミ、西南学院大学小野寺ゼミ、公立鳥取環境大学谷口ゼミ、流通経済大学長澤ゼミ)、4ゼミ合同発表会 (堀井・北澤・水野ゼミ) 1月 輪読、ゼミ論文制作、卒論テーマ発表  <b>4年次 【例年の実績 (オンライン・対面にかかわらず)】</b> 卒論制作：テーマ発表→資料・データ収集→第1回中間発表 (7-8月) →第2回中間発表 (11-12月) →最終発表 (1月) →提出					
<b>授業の進め方</b> ※演習方式を基本とします。 ・輪読・PR…報告者にレジュメの作成を、聴衆者に議論の推進を求めます。 ・FW…博物館・工場などを見学します。 ※2022年度につきましても、 <b>対面式でゼミを重視</b> しつつ、 <b>毎週オンライン設定を行い</b> ので、当日ちょっと体調が悪いという学生、帰省している学生、あるいはゼミ直前・直後に用事のある学生などには、遠隔式で参加できるよう配慮したいと思います。			<b>教科書及び参考図書</b> <b>【教科書：今年度使用したテキスト】</b> ・井奥成彦編[2017]『時代を超えた経営者たち』日本経済評論社 ・藤原辰史[2018]『給食の歴史』岩波書店  ※来年度は、ゼミの進捗状況に応じて決めます。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> ・出席状況 (議論や校外学習への参加を含む、50%) ・PR・論文に対する評価 (50%)			<b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		

## ゼミの企画、その他特記事項

### 1. 入ゼミ実績

	主演習生		副演習生・副専攻プログラム生		合計		
	応募者	内定者	内定者	主演習先	男子	女子	計
2009年(1期)	3	3	1	久原	4	0	4
2010年(2期)	11	9	2	岩田・三浦	8	3	11
2011年(3期)	10	8	3	清水・久原・荒川	5	6	11
2012年(4期)	8	8	2	浦川・大西	5	5	10
2013年(5期)	9	9	3	清水・清水・山本	8	4	12
2014年(6期)	13	10	2	清水・石田	9	3	12
2015年(7期)	12	10	4	清水・清水・岩田・関	6	8	14
2016年(8期)	6	6	—	—	3	3	6
2017年(9期)	17	10	4	加河・清水・岩田・篠崎	9	5	14
2018年(10期)	11	11	2	清水・篠崎	12	1	13
2019年(11期)	13	10	—	—	8	2	10
2020年(12期)	7	7	2	岸野, 副専攻(文学部)	7	2	9
2021年(13期)	0	0	1	篠崎	0	1	1

※学部・学府一貫プログラム生…5期:3人, 6期:3人, 7期:2人, 8期:1人, 9期:3人

※交換留学経験者…香港:1人, タイ:2人, 中国・短期:1人, 台湾:1人

※文系4学部副専攻プログラム生…文学部独文学研究室から1人

### 2. 野球やスポーツなどの日本経済史を研究してみませんか？

・私は、野球が好きで、コロナ禍でなければ毎年10試合以上観戦しています(PayPayドームに限りません)。今年7月には、ベースボールマガジンMOOK『俺たちのパシフィック・リーグ 太平洋クラブ・ライオンズ』という雑誌に、[「数字から読み解く「高度成長期」の福岡経済とライオンズ」](#)というエッセイを寄稿しました。野球には、明治初期からの長い歴史があります。そのルーツは現在の大学野球に始まり、高校野球、社会人野球、そして職業野球(現在のプロ野球)へと継承されていきます。当時の試合模様や観戦の雰囲気などの情報は、当時の新聞や雑誌にたくさん書かれています。野球に限らず、こうしたスポーツと社会経済や生活文化との結びつきに関心がある方がいましたら、ぜひ入ゼミしてみてください。球団やFCのファンは、問いません。

### 3. 社会人懇談会

・鷲崎ゼミでは、多くの社会人と交流して、企業や業界の様子を拝聴する場を設けています。最近では、愛知県議会議員、IHI、旭化成ホームズ、and factory、NTTデータ、NTT西日本、大林組、格付投資情報センター、グッチ・ジャパン、島津興業、双日、大建工業、西鉄、ニックス、日本銀行、博報堂、日立化成、ブラックストーン・グループ・ジャパン、丸紅、みずほ総合研究所、三菱重工、三菱商事、UR都市機構、リクルート(五十音順)の方々からお話を伺いました。

### 応募に当たっての注意

- ①オープンゼミ: **毎週木曜日4~5限** ※**遠隔で参加可能**です。
- ②**オンライン開催の説明会**では、現役ゼミ生との懇親を図り、質問・相談に対応します。入ゼミ希望者は、事前に紹介動画を視聴し、**説明会にご参加**下さい。
- ③入ゼミ希望者には、「演習参加申込書」提出前に**現役ゼミ生&担当教員との面談**を強く推奨します。アポイントは、[shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp](mailto:shuntaro@econ.kyushu-u.ac.jp)宛にメールを送信して下さい。  
(ゼミ説明会に参加できない場合も、上記アドレスまで連絡して下さい。個別に承ります。)

※ドラクエで、いつまでも素手で戦うプレイヤーがいないように、**これから社会に羽ばたく君たちに、さまざまな武器を身に付けてもらいたい**というのが、私の切なる願いです。**企画力・洞察力・表現力・団結力**といった**アイテムをどれでも修得してみたい**人は、ぜひ我がゼミの城門を叩いて下さい。

# 経済・経営学演習／経済工学演習

# (北澤 満 ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	日本の経済社会について、長期の時間軸で考察する	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	北澤 満	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	推奨基本科目「経済史Ⅰ・Ⅱ」を履修済であることが望ましい		キーワード	経済史、経営史、産業史、文献・情報検索、文章作成	
全体の教育目標	現代社会経済の諸問題について経緯を踏まえつつ、幅広い視点で分析する能力を養う。グループ・ワークなどの共同作業を通じ、社会性を涵養する。		個別の学習目標	情報・文献検索、レポート・論文等の作成、および各種プレゼンテーションなど、文系の大学生（大卒）として必要とされる技術、および正しい意味での教養を獲得する。	
<b>授業の概要</b> 近現代日本の社会経済に関して、諸産業・諸企業の盛衰、企業家、および背景となる文化・制度・慣習などに焦点を当てつつ、幅広く学習します。まずは初学者向けの平易な文献からはじめ、「個別の学習目標」に掲げた諸技術を習得しつつ、グループ・ワーク、個別の研究報告へと進んでいく予定です。当ゼミの最大の特色は「懐の深さ」です。「教育目標」に掲げた「経緯を踏まえた分析」にさえ留意してもらえれば、時期・対象のいずれについても、狭く限定することはありません。また、狭義の「経済史」、さらには「経済学」といった枠にとらわれず、政治・教育・文化（食生活・芸術・スポーツ・サブカルチャーなど）といった隣接分野に関しても、積極的に越境していきます。通常ゼミは、テキストの輪読（テキストの内容について報告の後、全体で議論します）、個人・グループの報告（経済成長と公害の発生、食文化の変容などといったトピックに関して、または経営者・思想家など人物に関して、テーマを設定）が中心ですが、「文献検索」・「レポート作成」のような各種ワークショップや、下記のようなイベントも予定しています（参加者の希望により、予定は随時変更していきます）。なお、通常ゼミは3・4年生合同で行います。					
<b>授業計画</b> 第1回 ガイダンス。当年度のゼミ計画を立案します。 第2回以降 テキストの輪読や、各自の報告を中心に行います。ほかに、下記のような企画を予定しています（最終的な決定については、ゼミ生の意思を尊重します） 4月 図書館ガイダンス・文献検索ワークショップ レポート作成ワークショップ（効果的なレポートの書き方について研修します） 12月 インゼミ（堀井・鷺崎・水野ゼミと合同）  ※コロナ禍以前は、ゼミ旅行、工場見学、および他大学とのインゼミなども実施していました。こうした行事を実施するか否かは、来年度の社会状況と、参加学生の意向によります。					
<b>授業の進め方</b> 基本的には、演習方式です。参加者には、楽しく議論するための準備が求められます。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】今年度は、粕谷誠『コアテキスト・経営史』などを使用しました。次年度のテキストは、新3年生とも相談の上、決定します。  【参考書】随時、指示します。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 出席状況（30%）、報告内容・議論への参加（40%）、ゼミ論文・グループ論文の評価（30%）			<b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。		

### ゼミの企画、その他特記事項

- ・堀井・鷺崎・水野ゼミと共同開催する研究発表会(12月)を実施予定です。
- ・コロナ禍以前は、工場見学のようなアカデミックなイベントのほか、飲み会、鍋会などもゼミ生の希望に応じて行っていますが、正規授業以外は、原則として希望者のみの参加です。また、学生の希望がなければ、そうしたイベントを無理強いすることはありません。総じて、コアとなる学習の部分を確保することは必須ですが、ゼミを今後の大学生活の中心とするか、それとも一部分とするかは、参加者の意思にお任せします。

### 応募に当たっての注意

- ・1次募集では、それほど成績を重視しません(推奨基本科目の履修も同様)。すべての面で、現時点での知識量(高校において、日本史履修をしたかどうかなど)も関係ありません。本の読み方、文章の書き方からテーマ設定まで、丁寧に指導します。自分を向上させていこうという気持ち、少しずつでも社会を変えていこうとする意欲があること、これが最大の参加条件です。
- ・「色々と勉強したいという意欲はあるが、まだやりたいことが固まっていない、見えない」という皆さん、応募を歓迎します。当ゼミでの学習のなかで、それは見つけられるはずです。
- ・ゼミ説明会は3回行います。ただし、説明そのものは動画を作成し、moodleにアップしておきますので、事前にそれを視聴してください。説明会の時間は、主として説明動画をみた上での、質疑応答の時間とする予定です。このため、説明会そのものの出席は、ゼミ応募に際し必須とはしませんが(説明動画の視聴は必須)、出席している場合、選抜が必要となった際に加点します。
- ・ゼミ活動については、Facebookページもご覧下さい。「九州大学 北澤ゼミ」で検索すればヒットします。Facebookアカウントがなくても閲覧できるよう、「公開」設定にしています。
- ・詳細なゼミ募集に関する情報は、moodleのゼミ募集ページで流します。

<https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=33069>

## 経済・経営学演習／経済工学演習

( 左近 幸村 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	アダム・スミスを読む	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	左近幸村	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし		キーワード	重商主義、古典派経済学、近世	
全体の教育目標	私たちの経済や社会に関する常識が、いつどのようにして成立してきたのかを、古典を読むことを通じて考える。スミスの皮肉を楽しむ。		個別の学習目標	アダム・スミスがどのような思想の持ち主だったかを、説明できる。	
<b>授業の概要</b> 新しく始めるゼミなので、4年生は不在である。今のところ、講義題目の通りアダム・スミス（翻訳で）読むゼミを想定している。 アダム・スミスは『国富論』の執筆により「経済学の父」として知られているが、しばしば「見えざる手」という言葉が独り歩きし、『国富論』での議論が単純化して捉えられることがある。この授業では、思想史や経済学の中で、アダム・スミスがどのように論じられているかを確認したうえで、実際にスミスの著書を読む。初年度はスミスの最初の著書である『道徳感情論』を読み、『国富論』は次年度に回すことを考えている。スミスの議論は18世紀ヨーロッパの社会や経済を強く反映しており、現代社会との違いを実感させる部分も多いが、同時に現代社会の原点を見出すことも可能である。また、スミスの著作にはユーモアや皮肉があふれており、そうした点も読み取ってもらいたい。					
<b>授業計画</b> 第1回 ゼミの進め方について相談 前期：アダム・スミスに関する先行研究を読む 後期：『道徳感情論』を読む。					
<b>授業の進め方</b> 輪読形式の予定。詳しくは、初回到相談。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 アダム・スミス『道徳感情論』（村井章子・北川知子訳）日経 BP 【参考書】 適宜指示する。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の成績			<b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> 新しいゼミなので、決まっていないことが多い。 ただし担当教員は下戸なので、コロナが収まったとしても、飲み会の類を積極的に企画することはない。					
<b>応募に当たっての注意</b> ゼミ説明会は自由参加。説明会に参加できない場合も、メールで相談可 ( <a href="mailto:sakon@econ.niigata-u.ac.jp">sakon@econ.niigata-u.ac.jp</a> )。 申請書に記載してほしい情報：自分がこれまで読んできた本の中で、特に印象的だった本 3冊を、その理由とともに挙げてください。ジャンルは問いません。					

<募集したい学生>

- 自分の常識を壊してくれる国に行ってみたい人。
- 先生の言うことを鵜呑みにしない人。
- インターネットに書いてあることを鵜呑みにしない人。

経済・経営学演習／経済工学演習 ( 教員名 大坪 稔)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	経営財務の基礎	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	大坪 稔	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経営学 I・II		キーワード	資金調達、キャッシュフロー、株価	
全体の教育目標	経営財務を中心として、企業経営について幅広く学習します。		個別の学習目標	財務の側面から企業活動について理解・評価することができるようになること	
<b>授業の概要</b> 3・4年生合同でゼミを行う。「経営財務」とは資金の調達や運用など、企業経営のうち資金に関係する分野を対象とした学問である。たとえば、企業にはどのような資金調達の手段があるのか？(株式市場から調達するのか、あるいは銀行から借り入れるのか?) そして、調達した資金を複数ある投資案件のどれに投下するのか？(複数ある投資案件のなかからどの投資案を実行するのか?) といった問題について学習していきます。					
<b>授業計画</b> 第一回 ガイダンスと参加者の自己紹介 第二回 ゼミの実施					
<b>授業の進め方</b> あらかじめ報告者を決めておき、報告者にテキストの内容を報告してもらった後、他の参加者から質問をしてもらい、その質問内容について討議していく。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 未定 【参考書】		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の出席を前提とし、発言および課題提出で評価			<b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月に新歓合宿(1泊)、夏季休暇中にゼミ合宿(2泊)と、年2～3回の懇親会があります。 (HPを参照:<a href="http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~otsubo/">http://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~otsubo/</a>)</li> <li>・テキスト報告と並行して、実際の企業の財務データを基に企業分析を行ってもらいます。</li> <li>・3年の夏季休暇中に、各自が選択した研究テーマに関する論文を書いてもらいます。</li> <li>・4年の後半に就職内定先の企業・業界を対象とした論文を書いてもらいます。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b> 登録を希望する学生は、できるだけ説明会に出席してください。なお、他の講義への出席などの「正当」な理由で説明会へ出席できない学生は、事前にメール( <a href="mailto:otsubo@econ.kyushu-u.ac.jp">otsubo@econ.kyushu-u.ac.jp</a> )にて連絡をしてください。選抜が必要な場合は、説明会への出席の有無や書類選考により選抜を行います。					

# 経済・経営学演習／経済工学演習

( 岸野 早希 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	人的資源管理	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	岸野早希	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経営学Ⅰ・Ⅱ		キーワード	人的資源管理、組織行動	
全体の教育目標	専門知識を活かして物事を様々な角度から考えられるようになること		個別の学習目標	企業経営における「ヒト」という経営資源の重要性を理解すること	
<b>授業の概要</b> このゼミでは人的資源管理論や関連分野である組織行動論、経営組織論を中心とした研究を行っていきます。3年次には教科書の輪読やグループ研究を通じて卒業論文に向けた専門知識の習得や研究方法を学びます。また、これらの活動を通じて卒業論文につながるテーマを見つけてもらい、4年時にはそのテーマに基づいた卒業論文へと取り組んでもらいます。現時点では講義計画に応じて3・4年別と3・4年合同のゼミを実施しようと考えております。					
<b>授業計画</b> <前期>第1回 ガイダンス、第2回～ 指定図書の輪読、グループ研究 <後期>合同ゼミに向けたグループ研究、卒業研究					
<b>授業の進め方</b> 前期：指定図書の輪読が中心 後期：グループ研究、発表準備が中心			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 上林 憲雄・厨子 直之・森田 雅也(2018) [新版]『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣 【参考書】		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 出席、課題への取り組み、ゼミへの貢献を総合的に評価します。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの議論や研究を行いますので必然的に人との関わり合いが多くなります。</li> <li>・他大学との合同ゼミを実施しますので、授業時間外での活動や遠征費が発生することがあります。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミへの参加を希望する場合は必ずゼミ説明会へ出席してください。説明会は対面とオンラインの両方を開催する予定です。</li> <li>・ゼミの志望理由書については「なぜ本ゼミに参加したいのか、将来どのようなキャリアを歩みたいと考えているか」という点を必ず含めて作成してください。</li> <li>・経営学Ⅰ・Ⅱを受講していることが望ましいです。</li> <li>・応募人数の如何に関わらず面接をしますので、申込書に必ずメールアドレスの記載をお願いします。</li> </ul>					

(面接の実施方法については来年1月の状況を鑑みて判断します。)

- 対面でのゼミ説明会の情報やオンラインでの説明会のzoomのURL情報はMoodleの「2021年度通年・火4火5・経済・経営学演習:3年生(岸野 早希)」の第15回に記載する予定ですので、ご確認ください。

# 経済・経営学演習／経済工学演習

( 中本龍市 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	経営組織	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	中本龍市	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経営学Ⅰ・経営学Ⅱの履修が望ましい		キーワード	経営学	
全体の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学の分析枠組みを利用して、組織の分析ができるようになること</li> <li>・プレゼンテーション能力(書く能力と話す能力)を獲得すること</li> </ul>		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学や社会学の考え方を使えるようになること</li> <li>・定性的、定量的な調査・分析ができるようになること</li> <li>・対話を通して相手の主張を理解できるようになること</li> </ul>	
<b>授業の概要</b> この演習では、質的研究と量的研究の双方の手法を通して、社会現象、その中でも、特にビジネスに関わる現象を理解することを目的とします。 ただし、このままでは広すぎるので、来年度は、ひとまず、組織の成長、存続、進化を題材にします。					
<b>授業計画</b> 第一回 イン트로ダクション 第二回 プレゼンテーションと討議 …以降続き。					
<b>授業の進め方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輪読</li> <li>・報告</li> <li>・討議</li> </ul>			<b>教科書及び参考図書</b> <b>【教科書】</b> ペンローズ(2010)『企業成長の理論』ダイヤモンド社 <b>【参考書】</b> 筒井淳也・前田泰樹(2017)『社会学入門－社会とのかかわり方』有斐閣		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 参加、発言、課題の提出(合計で100%)			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大防止のため、交流や調査などは例年通りにはいかないと想定されることに注意してください。</li> <li>・例年は3回生と4回生の合同で行います。ただし、感染状況によっては感染拡大防止対策のため、別々に行う可能性があります。</li> <li>・またインゼミも実施できない可能性があります。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゼミの説明会はオンデマンド方式です。YouTubeで随時ご覧ください。</li> <li>・質問があれば教員にメールで問い合わせてください。ryunakamo@gmail.com</li> <li>・現在所属している先輩方に直接おたずねになった方がゼミの雰囲気が伝わると思います。</li> <li>・応募書類に、「何を学びたいのか」を必ず含めてください。</li> </ul>					

# 経済・経営学演習／経済工学演習

( 内田大輔 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	企業行動の実証分析	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	内田大輔	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経営学 I・II の履修が望ましい		キーワード	経営戦略論, 経営組織論, コーポレート・ガバナンス論	
全体の教育目標	経営現象を論理的に説明する能力を身に付ける		個別の学習目標	読む・書く・訊く・考える・伝えるといった基本的な能力を習得し、他者との相互作用から新たな知見を得る作法を身に付ける	
<b>授業の概要</b> 本ゼミは、「何が原因で何が起こるか」(因果関係)を説明する力を養うことを目標にしています。その目標を効果的かつ効率的に実現するために、本ゼミでは、企業行動の実証研究に取り組みます。具体的には、(1)因果関係を実証的に検証するために不可欠な <b>研究手法</b> 、(2)企業行動に関する因果関係を論理的に理解するために必須な <b>経営理論</b> 、を体系的に習得していきます。そして、このような学びの場を通じて新たな知見を得た後には、いつもと同じ世界が少し違って見えるようになることを目指します。					
<b>授業計画</b> 3・4年生は基本的に別にゼミを行います(ただし、ケース・ディスカッションやゼミ論報告など、3・4年生合同でゼミを行うこともあります)。3年生は、前期に、社会科学における基本的な方法論および経営学における主要な理論について学び、実証研究を行うための土台をつくり、後期には、企業行動を実証的に分析する際に必要となる応用的な研究手法および経営理論を身につけ、ゼミ論文に向けて研究テーマを考えていきます。4年生は、前期に、ゼミ論文に向けてテーマを決定し、後期に、ゼミ論文の執筆に取り組んでいきます。詳細は、ゼミ説明会にてお話しします。					
<b>授業の進め方</b> 毎回、全員が必ず必要な予習をして授業に備え、その予習をベースに授業を進めていく。			<b>教科書及び参考図書</b> 数冊のテキストに加え、適宜配布する文献を用います(ゼミ説明会にて今年度で使用したテキスト・文献についてお知らせします)。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の成績(授業への出席・参加) : 100%			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 例年、懇親会・飲み会は定期的に開催しています。</li> <li>● ゼミ合宿や(学内外のゼミとの)合同ゼミ等を実施するか否かは、ゼミ生と議論したうえで決めています(昨年度は、九州大学の浦川ゼミと合同ゼミを開催しました)。</li> <li>● ゼミ生の主体性に応じて、ゼミの企画の内容は年度ごとによって変わってきたので、新3年生にも、新たなカルチャーを創っていただければと思います。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 4年生には、個人あるいはグループで<b>ゼミ論文</b>を必ず執筆してもらいます。</li> <li>● ゼミ説明会には<b>必ず参加</b>してください(今年度は2回の説明会の実施を予定しています。内容はどちらも基本的に同じですので、どちらか一方にはご参加ください)。万一、授業との重複など正当な理由により、どちらの説明会にも参加できない場合には個別に対応しますので、必ず事前に内田(duchida@econ.kyushu-u.ac.jp)までご連絡ください。</li> </ul>					

- オープンゼミは実施しません。入ゼミ後にミスマッチが生じないためにも、ゼミ説明会等を通じて、現役ゼミ生や担当教員と話してみることを強く推奨します。
- 演習参加申込書では、(1) 出身（出身地・出身校）、(2) 所属（サークル・バイト等）、(3) あなたが大学入学後から今まで注力してきたこと（学外の活動含む）、(4) あなたがゼミで学びたいこと・期待すること、(5) 将来の目標・目指す姿、を記述してください。

# 経済・経営学演習／経済工学演習

( 丸田起大 ゼミ )

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	管理会計	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	丸田 起大 (まるた・おきひろ) maruta@econ.kyushu-u.ac.jp	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	会計学Ⅰ・Ⅱを履修していること		キーワード	会計学・経営学	
全体の教育目標	管理会計の基礎知識と実務への応用力を身につける		個別の学習目標		

## 授業の概要

管理会計とは、経営者・管理者の意思決定・業績評価のために、組織の内部者向けに作成・活用する会計です。財務会計とは違い、管理会計は企業ごとに個性があり、優れた企業には優れた管理会計の仕組みがあります。管理会計情報は、インターネットで検索しても見つけることができない、企業秘密の情報です。よって、管理会計のノウハウは、同業他社や異業種へ転職する際にも、魅力的なスキルとして評価されています。ゼミでは、教科書・論文で公表されているもののほか、様々な業種の組織から特別に入手した社内資料を活用します。そのほか、公認会計士試験や簿記検定などの各種資格試験の過去問題も活用して、力試しをします。このゼミの特色は、会計学と経営学の両方の知識を身に付け、実際に実践してみるところです。ゼミは、原則として3・4年生合同(大学院生も参加)で実施しています。

## 授業計画

前期:管理会計の基礎知識を習得するために、教科書の発表・質疑、各種資格試験レベルの計算練習、ケーススタディなどをおこないます。

後期:管理会計のトピックを選び、企業への聞き取り調査、学園祭での起業体験、他大学とのゼミ交流などをおこない、個人研究や共同研究の成果を論文にまとめます。

## 授業の進め方

テキストの各章の担当者を割り当て、パワーポイントによる報告者のプレゼンテーションにもとづいて、全員参加によるディスカッションをおこないます。必要に応じて、計算練習やケースの分析、聞き取り調査したい企業を選定・交渉し、個人・グループでフィールドワークに出向き、成果を個人論文・共同論文としてまとめ、発表会を実施します。

## 教科書及び参考図書

### 【教科書】

参考として、過去に使用した教材を挙げておきます。MBA テキストなど英文教材を採用する場合があります。

- ・谷武幸『エッセンシャル管理会計』中央経済社
- ・浅田孝幸『管理会計・入門』有斐閣アルマ
- ・國部克彦『1からの管理会計』中央経済社、など

## 試験・成績評価の方法等

出席状況(ゼミ、各種行事、フィールドワーク)  
参加態度(プレゼンテーション、ディスカッション)  
ゼミ論文(3年次は共同論文、4年次は個人・グループ論文)

## その他

演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

## ゼミの企画、その他特記事項

他大学(北海道大学、中村学園大学など)とのゼミ交流、九大祭への出店によるビジネス体験、管理会計の実務担当者へのインタビュー、企業からのゲストスピーカーの招へい、OB/OG との交流などを実施しています。今年度は、九大祭出店はできませんでしたが、インゼミやフィールドワークを対面やオンラインで実施しています。

## 応募に当たっての注意

- ・ゼミ募集に関する連絡(Zoom の URL 等)は、経済 HP の「ゼミ関連情報」サイトからおこないます。
- ・オープンゼミは実施しません。応募は、原則として、ゼミ説明会への参加を条件とします。参加できない場合は、事前にメール(maruta@econ.kyushu-u.ac.jp)で相談してください。
- ・選考の参考とするために、演習参加申込書には、志望理由、ゼミ説明会の感想、進路希望(民間・公務員・専門職・進学など)、所属サークル、アルバイト歴、自己 PR、および連絡用のメールアドレス(PC とケータイの両方)を必ず記載してください。記載に不足がある場合は、選考に影響する可能性があります。
- ・ゼミでは、各自でワード・エクセル・パワーポイントをインストール済みのノート PC を持参してもらいます。
- ・このゼミは、例年、副演習は募集していません(副専攻プログラムの他学部生を除く)。

# 経済・経営学演習／経済工学演習

(大石桂一ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	企業会計	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	大石桂一	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	会計学Ⅰ・Ⅱを履修していること		キーワード	会計、財務諸表、企業分析	
全体の教育目標	会計情報を使いこなせるようになること、グループ・ワークができるようになること、およびプレゼンテーションとディスカッションの能力を高めること。		個別の学習目標	財務会計の制度および理論を理解したうえで、企業を分析する力を養うこと。	
<b>授業の概要</b> 本演習では、会計を有用な道具として使いこなせるようになることを目標としている。そのためにはまず、会計制度とその背後にある理論を理解することが必要である。プレーを楽しむためには、 <u>ある程度はルールを学ばなければならない</u> からである（つまり「ルールの学習」と「実際のプレー」とのバランスが重要なのである）。そのうえで、実際に会計情報を使って様々な分析を行う。 また、ゼミは基本的に3・4年生合同、2コマ連続で行う予定である。なお、必要に応じてサブゼミを行うこともある。					
<b>授業計画</b> 前期は、基本的なテキスト（受講者と相談の上で決定する）をもとに、財務会計の制度と理論について理解し、後期にはそれを応用して具体的な分析・研究を行うことを考えている（グループ・ワーク）。後期の具体的な分析・研究内容については、受講者の理解と関心に応じて決定する。 また、年度末には各自あるいはグループでの分析・研究の結果をゼミ論文にまとめてもらう。					
<b>授業の進め方</b> あらかじめ報告者（グループ）を決め、プレゼンテーションとディスカッションの形式で行う。			<b>教科書及び参考図書</b> 教科書・参考書は受講生の関心等を勘案し、相談のうえ決定する。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の成績（プレゼンテーションのレベル、ディスカッションの内容と積極性、および勤勉性）と年度末のゼミ論文で評価する。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本演習では学生による自主的な運営を旨とする。テーマや分析対象の選定、ゼミ合宿や飲み会の企画、学園祭への参加、インゼミの開催、および工場見学や企業訪問の計画など、自由に意見を出し合って、相談してほしい。その際に私はアドバイザーとしての役割を果たす。</li> <li>・年度末のゼミ論文（個人で書いてもよいし、グループで書いてもよい）の提出は必須とする。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンゼミは実施しない。</li> <li>・受講希望者はゼミ説明会には必ず参加すること。授業との重複など、正当な理由により参加できない場合は、メールにて連絡のうえ（oishik@econ.kyushu-u.ac.jp）、指示を仰ぐこと。</li> <li>・希望者多数の場合は、申込書に基づき選抜する。選抜に当たっては志望理由を重視する。</li> <li>・推奨基本科目（会計学Ⅰ・Ⅱ）の履修（単位取得ではない）を応募の条件とする。</li> </ul>					

## 経済・経営学演習 (潮崎智美ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	財務会計	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	潮崎智美	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	会計学Ⅰ、会計学Ⅱを履修していることが望ましい。		キーワード	会計学、財務会計、企業分析	
全体の教育目標	ビジネス・パーソンとなるのに不可欠な会計学の知識やスキルを習得することを目的としています。		個別の学習目標	財務諸表が読める。 企業を総合的に分析できる。	
<b>授業の概要</b>					
<p>本演習では、株主や債権者等の企業外部の利害関係者に対して報告をする「財務会計」を、新聞記事や雑誌記事などを多用して学習すると同時に、インターネットやデータベースなどを通じて収集した会計情報を分析する「企業分析」の手法を学びます。ゼミは基本的に3・4年合同で開催する予定です。</p>					
<b>授業計画</b>					
<p>第1回目のオリエンテーションの後、前期は「財務会計」または「企業分析」領域の文献の輪読(3・4年生)を行います。後期、3年生は例年日経STOCKリーグ(<a href="https://manabow.com/sl/">https://manabow.com/sl/</a>)に参加して、バーチャル投資を行い、グループワークにより財務諸表分析をベースとした論文を完成させます。グループワークでは、インターネット情報、新聞・雑誌記事、図書館資料、データベースなどを用いて企業の財務情報および非財務情報を収集し、投資テーマを選定して分析対象企業を選択し、企業分析や業界分析を行います。4年生は、学生それぞれの進路に沿ったテーマを選択し、卒業論文を執筆します。</p> <p>ゼミ論文や卒業論文は、グローバル化が進むなかで、グローバル企業やローカルな企業がどのようなビジョンや戦略を持って企業活動を行い、どのような成果を挙げているかを重視したものとします。</p>					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
担当者によるテキストや研究内容の報告 ⇒ディスカッション			【教科書】学生の適性や希望を考慮の上、決定します。参考までに、令和2年度は、伊藤邦雄(2020)『新・現代会計入門 第4版』日本経済新聞社、令和3年度は、伊藤邦雄(2021)『企業価値評価』日本経済新聞社を輪読しました。 【参考書】ゼミ内で指示します。		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
出席状況、授業態度(ゼミへの関わり方や発言内容)レポートなどにより評価します。			演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼミ論文・卒業論文を作成し、報告してもらいます。</li> <li>(コロナ禍が収束すれば) インターゼミ、企業訪問、講演会、交流会などを行う予定です。ゼミ合宿、ゼミコンパなどは、学生の自主性を尊重して決定します。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンゼミは実施しません。</li> <li>ゼミ説明会を実施します(場所日時は別途指示します)。参加必須ですが、やむを得ず参加できない場合には、その旨、メールで知らせてください。<a href="mailto:shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp">shiosaki@econ.kyushu-u.ac.jp</a></li> <li>申込書には、簡単な自己紹介・自己PRに加え、大学生活においてこれまでに何をしてきたか、これから何をやる予定であるか、大学を卒業して何をやるつもりかを含めてください。</li> <li>選考が必要な場合には、まず志望理由を重視し、成績も考慮したうえで決定します。</li> </ul>					
<b>演習参加申込書の提出方法(※提出にあたっては、教員が ■ と指示している提出方法に従うこと。)</b>					
第1次募集 <input type="checkbox"/> 手書き <input type="checkbox"/> Wordファイル <input checked="" type="checkbox"/> いずれも可 第2次募集 <input type="checkbox"/> 手書き <input type="checkbox"/> Wordファイル <input checked="" type="checkbox"/> いずれも可					

## 経済・経営学演習 (小津ゼミ)

授業科目名	経済・経営学演習		講義題目	SDGs時代の財務報告	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	小津 稚加子	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	会計学Ⅰまたは会計学Ⅱが推奨科目です。		キーワード	企業の経営分析と財務報告、SDGs(持続可能な開発目標)、ESG開示、企業の取り組み、グループワーク	
全体の教育目標	・財務諸表の読み方・見方、学部レベルでの専門的な文章の書き方、プレゼンの仕方の習得		個別の学習目標	・それぞれの関心にしたがって目標を立てて、SDGs時代の財務報告について理解を深めること。	
<b>授業の概要</b> このゼミでは、企業の会計や財務報告について理解を深めます。まず、財務諸表を読むための基本を、教科書をつかって復習します。つぎに、SDGs(持続可能な開発目標)時代における企業の財務報告について、書物や報告書を読み、企業の事例を調べます。 SDGsとは、持続可能でより良い世界を目指す国際目標です。ゼミに入る学生さんは、それぞれの興味、関心を大切にして「持続可能」を意識して、深掘りしたいテーマを選ぶことができます。例えば、水、食品ロス、教育の機会といった身近な話題から、ESG(財務情報だけでなく企業の環境・社会・ガバナンス)まで、さまざまな題材があります。ゼミの時間に互いに関心を紹介しあうことで、それぞれが視野を広げていくのが目標です。 このように本年度は、SDGs時代の企業の財務報告の事例を学びながら、持続可能な社会を作るために、私たちができることや企業の取り組みについて理解を深め、さらには、課題や限界があるときにはそれは何であるか、なぜ克服が困難であるのかを考える機会にします。					
<b>授業計画</b> 春学期・夏学期： ・4月から6月：教科書の輪読をつうじて、①企業の経営分析を修得する。②企業の財務報告の仕組みについて理解を深めます。 ・7月：復習と秋学期以降の学習計画(調査対象企業の選択など) ・9月末：他大学との合同ゼミを予定しています。 秋学期・冬学期： ・10月～：SDGs時代の財務報告を学びます。基本文献を読んで、意見交換をします。次に、企業の報告書をつかって、環境・社会・ガバナンスに関する情報がどのように報告されているか、確かめます。 ・企業の報告書の魅力と課題について、文章にします。PPTを作成し、口頭報告をします。					
<b>授業の進め方</b> ・輪番で教科書を読みます。 ・順番に、報告・質問・司会担当を持ち回りします。 ・レジュメは、原則、事前(3日前くらい)に提出を推奨します。事前準備をしてからゼミに臨みます。			<b>教科書及び参考図書</b> <b>【教科書】</b> 伊藤邦雄著『新・現代会計入門』日本経済新聞社 <b>【参考書】</b> さしあたり、蟹江憲史著『SDGs(持続可能な開発目標)』中公新書を紹介します。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> ・出席を前提とします。 ・平素のゼミ活動(予習、発言、役割など)を考慮して総合的に判断します。			<b>その他</b> ・演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> ・『修了研究』を全員で作成します。ひとりまたはグループで論文を作り、それらをまとめて冊子体になります。 ・毎年、夏季(9月または10月初旬)に大分大学と合同ゼミをオンラインでしています。 ・卒業生は、公務員試験、国家試験(税理士、公認会計士等)、就職活動、語学留学、サークル活動とゼミ活動					

を両立してきました。各種試験を受けるひとは、試験前の週に自主学習日を取ることができます。

#### 応募に当たっての注意

・ゼミ説明会は次の通り。

第1回:12月14日(火)16:30~17:00。オンラインによる。

第2回:12月21日(火)16:30~17:00 オンラインによる。

※教室でゼミの様子を見たいひと、先輩に会いたいひとはイースト2号館205教室に来てください。

★ゼミ説明会のURLは Moodle から参加できます。

<https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=36017>

科目名:2021年度通年・火4火5・経済・経営学演習(小津 稚加子)

ゼミ説明会は必ず出席してください。

質問があるひとは、[ozu@econ.kyushu-u.ac.jp](mailto:ozu@econ.kyushu-u.ac.jp) へどうぞ。

# 経済工学演習

( 藤田 敏之 ゼミ )

授業科目名	経済工学演習		講義題目	環境経済学, ゲーム理論の文献 輪読と自由発表	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開 講学期等	通常講義 通年	担当教員名	藤田 敏之	授業対象学生 及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	論理的思考能力が高く, 積極的 に学習し, かつ協調的な人。		キーワード	環境規制, 外部性, 費用便益分析, 環 境評価, 廃棄物, ゲーム, 戦略, 均衡	
全体の教育目標	環境経済学, ゲーム理論を深く 学ぶ。報告を行い他人の報告を 聞くことによって効果的なプレ ゼンテーションの仕方を学ぶ。		個別の学習目 標		
<b>授業の概要</b> 教員の専門である環境経済学とゲーム理論の入門から中級までの内容を学ぶ。3年ゼミでは教科書を読み、環境経済学とゲーム理論の基本的内容をしっかり身につける。4年ゼミでは3年次の学習を踏まえて環境のゲーム理論的分析に関する論文や研究書を読み、専門的な分野にふみこんで学習する。現在のところ、3・4年ゼミは合同で行う予定である。ゼミ論文を課すことはしないが、年度末には全員にレポートを課す。 (注) R3年度は教員の休暇取得のためゼミを実施していませんので、R4年度のゼミは3年ゼミのみとなります。					
<b>授業計画</b> 前期, 後期ともに以下の予定で進める。もちろん受講者数によって細かなスケジュールは変化する。 第1回・・・ガイダンス, 自己紹介, 第2回, 第3回・・・教員による補足的講義 第4回以降・・・受講者による報告および討論 (受講生1人につき各期最低1回の発表をお願いしたい。)					
<b>授業の進め方</b> 演習形式で行う。教員が講義をするのではなく、テキストの章を割り当てられた受講者の発表と討論によって授業を進める。報告者が責任をもった報告を行うことと受講者の積極的な参加を希望する。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】未定。R2年度は栗山・馬奈木『環境経済学をつかむ』有斐閣, 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣アルマを使ったが変更の可能性はある。 【参考書】特になし。ゼミ中に適宜指示をする。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 試験は行わない。成績評価基準は以下の通り。受講態度70%, レポート30%。正当な理由のない欠席1回につき減点。ゼミ中に発言すると加点する可能性あり。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> 本ゼミではすべての受講生が卒業時に胸を張って専門的な学習ができたと言えるようなレベルに達することを目指し、そのサポートをする。環境経済学やゲーム理論を究めたいという強い意欲をもつ学生と一緒に学んでいきたい。ゼミ生が将来自分の研究仲間となって、ともに刺激しあうというのが私の夢である。各種企画は受講生の意欲や希望に応じて検討する。					
<b>応募に当たっての注意</b> 上にも書きましたが、今年度ゼミを開講していませんので、オープンゼミはありません。 参加を希望する学生は、説明会に出席した後に申込書で以下を明記してください。ゼミ生を選考するにあたって、 <b>成績よりも申込書の内容を重視します</b> 。1. これまでの学生生活 (200 字以上) 2. 環境経済学またはゲーム理論に対する思い (400 字以上) 3. 趣味などについての特記事項, アピールポイント (任意)。参加申し込みをする学生とは直接話をしたいので、やむを得ない理由で説明会に参加できない学生はメールでご連絡ください (アドレスは tfujita@econ.kyushu-u.ac.jp)。応募しめきり前に、面談 (オンライン) の場を設けます。 <b>説明会に出席せず、私との面談もしていない人には原則としてゼミ受講を許可しません。</b>					

# 経済・経営学演習／経済工学演習

( 池下 研一郎 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	マクロ経済学と日本経済	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	池下 研一郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特にありません。		キーワード	マクロ経済学, 日本経済	
全体の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 経済学的な視点から物事を分析的に考察できる。</li> <li>➤ プレゼンや対話, 論文執筆などを通じて, 自らのアイデアを効果的に表現できる。</li> </ul>		個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 現代的なマクロ経済学のツールを理解し, 利用できる。</li> <li>➤ マクロ経済学的な観点から日本経済の課題や特徴を描き出せる。</li> </ul>	
<b>授業の概要</b> これまでの日本経済を振り返ると, 1990年代以降, バブル崩壊, デフレーション, 膨張する債務, 少子高齢化などの課題に直面し, 模索を続けてきました。その一方で日本経済の特徴や課題を理解し, 分析するためにはマクロ経済学の分析ツールが欠かせません。来年度のゼミでは, マクロ経済学に対する理解を深めつつ, 日本経済の特徴と課題を探っていきます。					
<b>授業計画</b> ゼミの前半では, 教科書を使ってマクロ経済学の基礎を一通り学んでいきます。後半では, より高度な文献を輪読し, データを集め, 日本経済の特徴や課題について議論を深めていきます。またゼミでの学修内容を踏まえた学術論文(3年生はゼミ論文, 4年生は卒業論文)を執筆します。					
<b>授業の進め方</b> 報告者によるプレゼンテーションと参加者によるディスカッションを中心に授業を進めていきます。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】ゼミ生と話し合っ決めてます。 【参考書】適宜紹介します。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> ゼミでの報告, 議論での参加状況, 課題の提出, ゼミ論文をもとに評価を行います。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 文献の読み方, 文章の書き方, プレゼンテーションの方法まで丁寧に指導します。</li> <li>➤ 新型コロナウイルスの感染状況(とゼミの雰囲気)次第ですが, 通常のゼミ以外にも懇親会, 工場や日銀の見学など行いたいと思いますので積極的に参加してください。</li> <li>➤ ゼミでの学修は大変な部分もありますが, 講義とは違う充実感も体験できます。意欲的な学生の参加を期待しています。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ゼミ説明会への参加は任意ですが, できるだけ参加してください。ゼミについて質問がある場合には次のアドレスにご連絡ください(<a href="mailto:ikeshita@econ.kyushu-u.ac.jp">ikeshita@econ.kyushu-u.ac.jp</a>)。</li> <li>➤ オープンゼミは実施しません。</li> <li>➤ 応募者が多数の場合には, 志望理由書の熱量を考慮して選抜します。</li> </ul>					

## 経済工学演習 ( 山崎 大輔 ゼミ )

授業科目名	経済工学演習		講義題目	統計学・データ分析	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	山崎 大輔	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	学習意欲があること。 ゼミに積極的に参加すること。		キーワード	統計学、データ分析、データサイエンス	
全体の教育目標	統計学の手法を理解した上で、データ分析を行うことができる。 ゼミでの発表を通して、プレゼンテーション能力を養う。		個別の学習目標	統計学・データ分析に興味・関心を持つ。	
<b>授業の概要</b> 本ゼミでは、統計学・データ分析の手法を学び、各自で決めたテーマに関するデータ分析を行います。このゼミでは、近年のデータサイエンスにおいて多く用いられているような、実用的な分析手法について主に学んでいきます。さらに、統計ソフト「R」を用いた実習や、ゼミ生各自の興味のあるテーマについてのデータ分析を行います。なお、3・4年合同でゼミを行う予定です。					
<b>授業計画</b> 前期：統計学・データサイエンスに関するテキストを読み進める。 これと並行して、コンピュータ・統計ソフトを用いた実習を行う。  後期：ゼミ生各自の興味・関心のあるテーマについてのデータ分析を行う。 また、分析結果をゼミで発表して、レポートにまとめる。					
<b>授業の進め方</b> テキストの輪読や、コンピュータ・統計ソフトを用いた実習を行います。また、分析結果についてのプレゼンテーションを行います。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 照井伸彦 (2018)『ビッグデータ統計解析入門 経済学部／経営学部で学ばない統計学』日本評論社  【参考書】 星野匡郎・田中久稔 (2016)『Rによる実証分析 回帰分析から因果分析へ』オーム社		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の成績（出席、ゼミでの報告、レポートなど）に基づき成績評価を行います。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> ゼミの企画等については、ゼミ生と話し合っていく予定です。					
<b>応募に当たっての注意</b> オープンゼミは実施しません。本ゼミへの応募を考えている方は、ゼミ説明会に参加してください。 ゼミ説明会はオンライン(Zoom)で行います。詳細については、ゼミナール関連情報のページ <a href="https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~seminar/profile.php?zemi_id=50">https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/~seminar/profile.php?zemi_id=50</a> に情報を掲載します。 都合によりゼミ説明会に参加できない場合は、事前に山崎 ( <a href="mailto:yamazaki@econ.kyushu-u.ac.jp">yamazaki@econ.kyushu-u.ac.jp</a> ) までメールで連絡してください。 なお、応募者が多い場合は、申込書の内容と成績に基づいて選抜を行います。					

経済・経営学演習／経済工学演習

( 瀧本 太郎

ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	データサイエンス入門	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	瀧本 太郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	事前の準備やゼミでの発言はもちろん、積極的にゼミ活動に参加することに加え、“知的好奇心”と“やる気”		キーワード	計量経済学, データサイエンス, R, Python	
全体の教育目標	統計的手法に基づく分析を行うプレゼンテーション能力を養う グループでの学習・研究・発表を通じ、広く社会性を養う 国際性と英会話力も少し		個別の学習目標	自分でテーマを見つけ、ゼミでの分析を通じて、データサイエンスの専門家としての自信をつけること	
<b>授業の概要</b> 無料で配布されている統計ソフト「R」と「Python」を使って、様々な統計的分析手法とその応用例を学びます。特に、貪欲に知識を吸収し、データサイエンスに関する知識をこれからの人生における強力な武器にしたい人におすすめです。					
<b>授業計画</b> ゼミは3・4年生合同、2コマ連続の予定 1. 前期：『Introductory Econometrics』, 『Using R for Introductory Econometrics』, 『Pythonによる経済・経営分析のためのデータサイエンス』 2. 前期最終日もしくは夏季：ゼミ論文（3年生）, 卒業論文（4年生）に向けたテーマの設定 3. 後期：『Introductory Econometrics』, 『Using R for Introductory Econometrics』, 『直観Deep Learning』, ゼミ論文・卒業論文の作成 通年：各週に公表された統計データについての報告					
<b>授業の進め方</b> 報告, 実習, 解説			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 1. Wooldridge (2019) Introductory Econometrics: A Modern Approach, South-Western Pub 2. Heiss (2020) Using R for Introductory Econometrics, Independently Published 3. 原 (2021) 『Pythonによる経済・経営分析のためのデータサイエンス』, 東京図書 4. Gulli and Pal (2018) 『直観 Deep Learning』, オライリー・ジャパン 【参考書】 1. 養谷 (2007) 『計量経済学大全』, 東洋経済新報社 2. Wickham and Grolemund (2017) 『Rではじめるデータサイエンス』, オライリー・ジャパン 3. Grolemund (2015) 『RStudioで始めるRプログラミング』, オライリー・ジャパン		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 出席, 報告, 議論への参加, ゼミ論文（3年生）, 卒業論文（4年生）			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		

### ゼミの企画、その他特記事項

- これまでゼミ合宿や他大学(京都大学, 山形大学, 兵庫県立大学, 国立台湾大学など)とインターゼミナールをしています。2022 年度については皆さんと相談して決めたいと思います。その他, 他ゼミと合同 BBQ やスポーツ大会などもしています。
- 中国, モザンビーク, コンゴ民主共和国, エチオピアからの留学生がゼミで学んでいます。また, 今までに 12 名の先輩が交換留学(フィリピン, フランス, イギリス, アメリカ 2 名, 台湾 2 名, シンガポール 2 名, スウェーデン, ベトナム, 中国)に行っています。
- ゼミでは, GProE 生, マス・フォア・イノベーション卓越大学院学生も学んでいます。
- 博士後期課程の学生が 2 名, 修士課程の学生が 5 名, 当ゼミで学んでいますので, 積極的に院生の先輩と交流してもらえたらと思います。

### 応募に当たっての注意

- 選抜の際は, 志望理由・成績をもとに総合的に判断します。
- 授業や就職活動等でゼミ説明会をやむを得ず欠席する場合は事前に相談してください。
- 12 月 13 日(月)4-5 限にオープンゼミをオンラインで実施する予定です。少しでも関心がある場合はお気軽に参加してください。自由に入退出いただいて大丈夫です。なお, Moodle 上で情報提供しますので, 「2022 年度経済工学演習(瀧本 太郎)に関する案内」のコース登録をお願いします。
- ゼミ説明会・オープンゼミへの参加は任意です。

## 経済工学演習（村尾徹士ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		講義題目	Pythonで学ぶ強化学習	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	村尾徹士	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> <li>ゼミでしっかりと勉強したいという熱意があること。</li> <li>プログラミングと数学に抵抗がないこと。</li> <li>インゼミや飲み会に参加してゼミメンバーと積極的に交流する意思があること。</li> </ol>		キーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>Pythonプログラミング</li> <li>強化学習</li> <li>数値解析手法</li> </ul>	
全体の教育目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>学術的知識（数値解析手法と強化学習の基本）の修得</li> <li>専門的技術（Pythonプログラミング）の修得</li> </ol>		個別の学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>基本的なPythonプログラムを独力で書けるようになる。</li> <li>基本的な数値解析手法を理解する。</li> <li>強化学習の基本的な理論とアルゴリズムを理解する。</li> </ol>	
<p>村尾ゼミでは、Pythonプログラミングと数値解析手法を学んだ後、機械学習の一分野である「強化学習」について学びます。強化学習は、いわゆる「人工知能」と聞いて真っ先に思い浮かぶ技術のことです。コンピュータプログラムの中の行動主体に対して、行動の結果に応じた報酬を与えることにより、より多くの報酬が得られるような行動ルールを自ら学習させようとする手法です。ゲームAIを例にとれば、ゲームに勝ったら報酬を与えることで、期待報酬が高まるよう機械自身に戦略を試行錯誤させます。つまり、ゲームAIの「学習」は、戦略に関する期待報酬最大化問題として表すことができます。Google DeepMind社による囲碁AI「AlphaGo シリーズ」の成功で一躍脚光を浴びましたが、資産運用や自動運転を始めとして、様々なタスク自動化への応用が期待されている技術です。</p> <p><b>Q. 村尾ゼミに向いている人とは？</b></p> <p><b>A. 「大学で専門的な知識を得たい」と考えている方に向いているゼミだと思います。勉強内容は決して易しくありませんが、基礎から緻密に積み上げ、ゆっくりと学習を進めていくことがこのゼミの特徴です。受講生各自が全ての内容を深く理解できるようになることを目標にしているためです。ちょっと難しいことをじっくりと時間を掛けて学べることは学生時代の大きな特権だと思いますし、その経験は今後の人生における財産になるはずで、ぜひ多くの皆さんに門を叩いて欲しいと思います。なお、Pythonプログラミングに関する知識は応募の段階では前提としません。</b></p> <p><b>授業計画</b></p> <p>【3年次】 Python言語の文法および（機械学習等の科学技術計算に必要な）数値解析手法を学ぶ。          【4年次】 強化学習について学ぶ。</p>					

<b>授業の進め方</b> 毎回の授業では、ゼミ生による発表とディスカッション、および教員による補足解説を行います。村尾ゼミでは <b>発表の質をととも重視</b> しているのです、しっかりと <b>発表準備を行うこと</b> を求めます。	<b>教科書及び参考図書</b> [1] 渡辺 (2020):『ゼロから学ぶ Python プログラミング』。 [2] 小川 (2018):『つくりながら学ぶ！深層強化学習 PyTorch による実践プログラミング』。
<b>試験・成績評価の方法等</b> ゼミ発表の質と議論への参加状況に基づいて成績評価を行います。	<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。

<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>【卒業研究】</b> 四年次には卒業研究を行います。</li> <li>● <b>【イベント①】</b> 2022 年度は年に数回の飲み会を行う予定です（新型コロナの状況次第ではオンラインでの開催となります）。本ゼミではメンバー同士の交流も重視しているので、その点を了解したうえでご応募下さい。</li> <li>● <b>【イベント②】</b> 「Python を用いたデータ分析」について学んでいる福岡女子大学・梶田ゼミとのインゼミを行っています（新型コロナの状況次第ではオンライン開催となります）。インゼミでは必ずしもゼミの学習内容にとらわれず、幾つかのグループに分かれて自由に Python プログラムを作ってもらっています。</li> </ul>
---

**【応募を検討している方への重要なお知らせ】**

※ 村尾ゼミに応募する際は、1) ゼミ説明会に出席したうえで、2) 志望理由書を作成して期日までに提出して下さい。ゼミ説明会への出席は村尾ゼミへの応募の必須条件です。

**【1. ゼミ説明会について】**

- 説明会に関する情報は、Moodle コース「村尾ゼミ募集 2022」にて提供します。
  - コース URL : <https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=40464>
- やむを得ずゼミ説明会に出席できない方は、事前に村尾までメールで連絡して下さい。
- ゼミ説明会は同じ内容で複数回実施する可能性があります。

**【2. 志望理由書について】**

- 応募者多数の場合の選抜においては、志望理由書の記載内容（及び成績）を考慮して判断します。
- 志望理由書には以下の諸点についてできるだけ詳しく述べて下さい。
  - 1. 村尾ゼミに興味を持っている理由。
  - 2. 大学生活で頑張ってきた（いる）こと。
  - 3. 今後どのような大学生活を送りたいか。大学生活の目標。
  - 4. 卒業後の進路に関する希望。
  - 5. その他、アピールしたいことがあれば。

## 経済・経営学演習／経済工学演習 （ 宮崎 ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		講義題目	財政と地方財政	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	宮崎 毅	授業対象学生及び学年等	3年
単位数	4単位				
履修条件	特になし。		キーワード	財政、地方財政、税制	
全体の教育目標	理論と実証の経済分析手法を習得した上で、財政・地方財政・税制に関する問題を経済学的に議論できるようになることが目標です。		個別の学習目標	ゼミでの報告と議論を通じて、プレゼンや議論の能力を養います。グループ学習により、協調性を涵養するとともに、ゼミ生間での交流も図ります。	
<b>授業の概要</b>					
<p>本演習では、理論と実証における経済学の分析ツールを用い、財政や地方財政、税制に関する問題を経済学の知識に基づいて学習します。特に、経済理論と計量経済分析の知識を応用分析で使えるレベルまで高め、統計ソフトを使って各自で現実の財政や地方財政、税制を分析できるようになることが目標です。そのため、前期に計量経済学と統計分析ソフトRの学習を行い、後期に財政・地方財政・税制を学習します。ミクロ経済学を来年の前期に学習します。</p>					
<b>授業計画</b>					
<p>・通常、ゼミは3、4年別、または合同で実施しています</p> <p>【前期】</p> <p>第1回 ガイダンスと日程</p> <p>第2回－第15回 計量経済学とR：星野 匡郎・田中 久稔『Rによる実証分析 一回帰分析から因果分析へ』で計量経済学と統計の基本、Rの使い方を学習します。統計、確率論、相関関係と因果関係、単回帰、重回帰、ランダム化実験、マッチング法、不連続回帰デザイン、操作変数法などを学習する予定です。また教科書に載っているRコードを使って、R の導入や基本操作、Rによる回帰分析を学習します。</p> <p>【後期】</p> <p>（3年生）第1回－第15回 財政・地方財政・税制：Rosen and Gayer, <i>Public Finance</i>を輪読し、財政や地方財政、税制を経済理論と実証の両面から学習します。</p>					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
<p>グループによる報告と討論形式で進めます。報告ではレジュメを用意して担当箇所を発表し、討論者及び全員で討論を行います。</p> <p>教科書に R コードがある場合には、R を使った演習も行います。</p>			<p>【教科書】</p> <p>星野 匡郎・田中 久稔『Rによる実証分析 一回帰分析から因果分析へ』オーム社。</p> <p>Rosen and Gayer, <i>Public Finance (9th)</i>, McGraw Hill.</p> <p>【参考書】</p> <p>授業中に、適宜指示。</p>		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
出席点50%、平素点50%（発表や討論、課題など）			演習参加の申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できます。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学をもう一度しっかり学習したい、R を使った計量分析を行いたい、経済学に基づいて財政や地方財政を議論できるようになりたいという学生にお勧めのゼミです。</li> <li>・飲み会やOB会、ゼミ合宿、スポーツ大会も行いますので、これらの企画には積極的に参加しましょう。例年、ゼミ合宿(九重)を9月に、スポーツ大会を6月(浦川ゼミ、大西ゼミ、瀧本ゼミ)に行っています。</li> </ul>					

### 応募に当たっての注意

- なおゼミ説明会はオンライン (Zoom を予定) で実施予定ですので、参加予定の学生は必ず教員にメールで連絡をしてください (E-mail: [tmiyazak@econ.kyushu-u.ac.jp](mailto:tmiyazak@econ.kyushu-u.ac.jp))。
- 3年生は、3, 4年続けて履修することを前提として履修してください。
- ゼミ説明会への参加を強く推奨します。ただし、やむを得ず参加できない学生については、事前にメールで連絡をするようにしてください (E-mail: [tmiyazak@econ.kyushu-u.ac.jp](mailto:tmiyazak@econ.kyushu-u.ac.jp))。
- 授業の成績だけでなく、ゼミでの学習意欲を重視します。特に、財政や地方財政への強い問題意識を持っている学生を望みます。大学院、国家公務員や地方公務員志望の学生も、大歓迎です。応募者が比較的多い場合は、志望理由や成績によって選抜を行います。
- 3年或いは4年次に財政を履修することになります。
- 来年の前期にミクロ経済学を学習します。奥野正寛編『ミクロ経済学』で、消費者行動、生産者行動、市場均衡、ゲーム理論、不完全競争、外部性と公共財を学習する予定です。
- 4年生は、各自で卒業論文を執筆します。

### 演習参加申込書の提出方法 (※提出にあたっては、教員が ■ と指示している提出方法に従うこと。)

- |       |                              |   |                                |
|-------|------------------------------|---|--------------------------------|
| 第1次募集 | <input type="checkbox"/> 手書き | <input checked="" type="checkbox"/> Word ファイル | <input type="checkbox"/> いずれも可 |
| 第2次募集 | <input type="checkbox"/> 手書き | <input checked="" type="checkbox"/> Word ファイル | <input type="checkbox"/> いずれも可 |

経済・経営学演習／経済工学演習

(三輪 宏太郎 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	行動ファイナンスと証券投資	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	三輪 宏太郎	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし（金融関連の講義の受講歴があれば、なおよし）		キーワード	投資家心理、株価形成	
全体の教育目標	金融の諸問題を、独自に調査し、実務に耐えうる分析調査能力を身につける		個別の学習目標	人間の心理が、投資行動や株価などの資産価格に及ぼす影響についての理解を深める。	
<b>授業の概要</b> 今年度は、3年、4年別々にゼミを行います（3年行動ファイナンス、4年投資論を想定）。前半部は、テキストを論読し、行動ファイナンスに関する知識を深めることに重点を置きます後半部は、①教員が提示するケースに関する調査・分析②各人が独自で調査したケースについて発表し、議論し、人間の心理がいかに投資行動・価格形成に影響を与えるのか理解を深めていただきます。					
<b>授業計画</b> （前期） 第1回 ガイダンス；ゼミの進め方と輪読・課題内容について 第2回以降 輪読発表 （後期） 調査・課題発表など ※適宜、金融に関するケーススタディの回、金融業界の実務家による特別レクチャーの場を設けます					
<b>授業の進め方</b> 基本的に、担当者の発表→質疑応答→教員の解説→課題の議論で進めます。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 Ackert, Lucy, Deaves, Richard : Behavioral Finance: Psychology, Decision-Making, and Markets		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 発表50% 出席20% 議論への参加度30%			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> ※担当教員は、実務家出身のため、実務的側面を重視した内容となります。 （金融業界の就職活動などの相談も可） ※就職活動が前倒しになっている昨今の状況を鑑み、企画に関しては基本的に参加ゼミ生の自主性に任せます。					
<b>応募に当たっての注意</b> ※ゼミ説明会は自由参加です（ハイフレックスの予定ですが、オンラインに切り替える可能性があります） ※説明会参加の場合、Moodle コース“三輪宏太郎ゼミ 2022 年度説明会”に登録してください。その際、オンライン・対面どちらで参加予定か、アンケートに記入してください。 ※志望理由は、今後、ゼミで学ぶ予定の内容をどのように生かしていきたいかを中心に書いてください。					

## 経済工学演習 (浦川邦夫ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	社会保障の経済学	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	浦川 邦夫	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	特になし。		キーワード	社会保障、教育、格差、貧困	
全体の教育目標	日本や他の諸外国の歴史・制度・文化に対する理解を深め、現行の社会保障制度に対する問題意識を培う。		個別の学習目標	ゼミ生同士で互いに交流し、討論、データ分析、資料作成、発表等の一連のプロセスを通じて能動的な学習能力を培う。	
<b>授業の概要</b> 今年度の演習では、日本や諸外国の社会保障政策に注目し、医療・介護・年金などの諸制度が、人々の働き方や、格差・貧困の削減にどのような影響を与えているかについて学ぶ。特に、「社会的入院」や「介護離職」、「待機児童」など、現行の社会保障制度が抱えている重要な問題に焦点をあて、社会保障の資源の配分や費用負担の公平性について議論する。後期は、全国の学生が集まる論文報告会に参加し、他大学の学生とのアカデミックな交流を通じて、自分の視野や可能性を大いに広げてもらいたい。					
<b>授業計画</b> 春学期...専門書や論文に基づき、我が国の社会保障制度（医療、介護、年金、保育）に関する具体的かつ専門的な知識を深める。また、社会保障政策が家計の経済活動や国・地域の経済成長、格差・貧困の削減に与える影響を分析した研究を学ぶ。 秋学期...家庭環境や教育制度、社会保障政策が格差・貧困に与える影響を分析した理論・実証研究の輪読・発表・討論を行う。論文報告会やインゼミに参加し、他大学の学生との交流機会を積極的に持つ。					
<b>授業の進め方</b> 報告・討論のゼミ形式で行う。			<b>教科書及び参考図書</b> <b>【参考書】</b> 権丈善一 (2021)『ちょっと気になる政策思想—社会保障と関わる経済学の系譜』勁草書房 広瀬巖 (2016)『平等主義の哲学—ロールズから健康の分配まで—』勁草書房		
<b>試験・成績評価の方法等</b> ゼミでの発表内容や課題50% 出席50%			<b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> BBQ やスポーツ大会などの学内交流に加え、他大学とのインゼミ（神戸大学、慶應義塾大学、上智大学などを予定）、ゼミ旅行（医療・福祉施設の見学を含む）を通じて学際的な交流を行う。					
<b>応募に当たっての注意</b> 履修希望者は、ゼミ説明会（一覧表は別途掲示）に参加するようにしてください。 ゼミに関するより詳細な質問は、メールで随時受け付けます。 <a href="mailto:urakawa@econ.kyushu-u.ac.jp">urakawa@econ.kyushu-u.ac.jp</a>					
<b>演習参加申込書の提出方法（※提出にあたっては、教員が ■ と指示している提出方法に従うこと。）</b> 第1次募集 ■手書き □Word ファイル □いずれも可 第2次募集 ■手書き □Word ファイル □いずれも可					

## 経済・経営学演習／経済工学演習 （教員名 葉 ゼミ）

授業科目名	経済工学演習	講義題目	企業分析と研究	
授業科目区分	選択必修科目	授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名 葉 聰明 (Tsung-ming Yeh)	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位			
履修条件	とくになし	キーワード	企業価値、M&A、企業統治	
全体の教育目標	企業行動を経済学的に分析し、企業価値への影響について評価することができること	個別の学習目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自主的学習の習慣</li> <li>● プレゼンのスキル</li> <li>● コミュニケーション能力</li> </ul>	
<b>授業の概要</b>				
<b>3年生の場合</b>				
<p>2022年度では、教員の研究分野である M&amp;A（企業合併買収）や企業統治を中心に、代表的な教科書を使い、輪読の形で勉強していきます。最近では、SBI が新生銀行に TOB（公開買い付け）を仕掛けた事例や、スーパー大手の「関西スーパー」と「オーケー」がエイチ・ツー・オー（H2O）への買収で競い合った事例からわかるように、日本でも M&amp;A が活発的になり、企業価値を高める戦略として活用されています。また、ESG（Environment、Social、Governance）経営が世界的に重視されている中、企業統治（Governance）も企業価値を高めるうえで重要な役割を占めています。</p> <p>教科書の輪読を通じて、M&amp;A や企業統治についての仕組みや論点を勉強したうえで、それらがどのように企業の価値・業績・株価に関連しているのか先行研究の結果を見ていきます。</p>				
<b>4年生の場合（自由選択、希望者のみ）</b>				
<p>M&amp;A や企業統治、さらにその周辺分野のトピックを受講者（グループ）が選定し、研究プロジェクトを進めていきます。研究プロジェクトの実施に当たって、教員は「文献レビュー」、「研究方法」、「データの収集」、「統計ソフト」、「レポートの書き方」などについて手ほどきをします。</p>				
<b>授業計画</b>				
<b>3年生の場合</b> 使用する教科書の内容に従って輪読を進めていきます。				
<b>4年生の場合（自由選択、希望者のみ）</b> 前期では教員は研究の手ほどきをしながら、受講者は各自の問題意識を持って研究のトピックを模索しながら決定します。前期の後半から受講者（グループ）が研究プロジェクトをスタートさせ、後期の終了までに研究を完成させ、レポートをまとめます。				
<b>授業の進め方</b>		<b>教科書及び参考図書</b>		
3年生の場合、教科書を輪読する形式でメンバーが分担して報告、討議を行う。4年生の場合、受講者（グループ）が研究プロジェクトを実施し、定期的に進捗報告をする。		3年生ゼミでは教科書（洋書）を指定する。		
<b>試験・成績評価の方法等</b>		<b>その他</b>		
ゼミへの参加や成果物で全体的に判断する		演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>その他特記事項</b> とくになし				
<b>応募に当たっての注意</b>				
ゼミ説明会：参加必須。ゼミ選抜基準：履修状況や成績など総合的に判断。				
オープンゼミ実施：なし。授業との重複や就職活動などでやむを得ず参加できない場合、別途面談。				
<b>演習参加申込書の提出方法（※提出にあたっては、教員が ■ と指示している提出方法に従うこと。）</b>				
第1次募集    □手書き        ■Word ファイル    □いずれも可				
第2次募集    □手書き        ■Word ファイル    □いずれも可				

# 経済・経営学演習／経済工学演習

( 内田 交謹 ゼミ )

授業科目名	経済工学演習		講義題目	コーポレートファイナンス	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	内田 交謹	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	ファイナンス分野の実証研究に強い関心があること		キーワード	投資、企業評価、資金調達、配当、合併・買収、リスク・リターン、株価	
全体の教育目標	ファイナンス（特にコーポレートファイナンス）に関する主な理論の理解と研究への応用		個別の学習目標	ファイナンスの主要理論を理解した上で実証分析を行い、プレゼンおよびゼミ論文を執筆する。	
<b>授業の概要</b> 年度当初は株価決定、企業の投資、資金調達、配当等に関する基礎的なファイナンス理論の確認およびデータ演習を行い、ファイナンス分野の研究文献の輪読を行います。その後、グループ単位で関心のあるテーマについて、教員とインテンシブな議論をしながら実証研究に取り組む予定です。					
<b>授業計画</b> ■ 第1回～第8回：ファイナンスの基礎理論の確認とデータ演習・発表 ■ 第9回～第15回：ファイナンス分野の研究論文の輪読と実証分析方法の学習 ■ 第16回～第30回：ファイナンスに関するグループ研究（データ収集・分析、プレゼン）					
<b>授業の進め方</b> 春休みに指定図書を読んでもらい、4月からはその内容について確認とデータ演習を進めます。その後、指示した文献の輪読やデータ収集・分析を進めます。			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 使用しない 【参考書】 内田交謹『コーポレート・ファイナンス 第三版』創成社、2021年。		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の成績 60%、課題・ゼミ研究40%			<b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生のみが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> ■ インターゼミ(過去、神戸大学、立命館アジア太平洋大学等と実施)。コロナ明けは飲み会。 ■ 希望者はゼミ説明会(ハイフレックス)に参加してください。ゼミ見学については説明会で周知します。 ■ 採用に当たって面接を実施する場合があります。					
<b>応募に当たっての注意</b> ■ ゼミでは、自分だけでは不可能な専門的な研究に取り組んでもらいます。 ■ そのため、高度な研究に関心を持つ学生、疑問点をそのままにせず、積極的に質問する学生を募集します。 ■ ゼミ説明会をやむを得ない理由で欠席する場合は、理由とともにメールで連絡してください： <a href="mailto:uchida.konari.344@m.kyushu-u.ac.jp">uchida.konari.344@m.kyushu-u.ac.jp</a> 。					

## 経済工学演習（堀 宣昭 ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		講義題目	文化と制度の共進化と経済発展	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	堀 宣昭	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	経済学入門、【基本】ミクロ経済学 I, II、マクロ経済学 I, IIの単位修得。		キーワード	文化、制度、経済発展、ゲーム理論	
全体の教育目標	文献を分析的に読解し、自分のアイデアを論理的・効果的に表現するスキルを涵養する。		個別の学習目標	方法論的個人主義・均衡といった、社会現象を理解するための経済学に特徴的な方法論を理解する。	
<b>授業の概要</b>					
<p>「文化と制度の共進化」という視点から経済発展を理解する、現代経済学の比較的新しい考え方を学ぶ。ここでいう「文化」は、特定の集団で共有・継承され、人々の社会的行動を規律付ける価値観や世界観のことで、「制度」は、政治的グループの間で、政策形成に影響する政治的パワーがどのように配置されているかを示す。</p> <p>人類はわずか2世紀の間で急激な経済成長を経験したが、それは時間的、地理的に一様に生じた現象ではない。Koyama and Rubin (2022)では、現代の経済成長の起源と条件についての最新理論を検証しながら、「文化と制度の共進化」というアイデアが紹介される。文化と制度は相互に影響、補完しながら進化、変容していく。ゼミでは、どのような共進化のパターンが経済成長を準備し、もしくは社会の停滞へとつながるのか、その理論的なメカニズムを学ぶ。</p> <p>まず、文化の役割や変容を理解するための基礎として、簡単なゲーム理論や文化進化・伝達の理論モデルを一通り学習する。その後、Koyama and Rubin (2022)や関連する参考図書を講読する。</p> <p>ゼミは3-4年合同で行う。</p>					
<b>授業計画</b>			<b>授業の進め方</b>		
[1Q] ゲーム理論や数理モデルの学習			少人数講義＋学生による報告		
[2Q・3Q] Koyama and Rubin (2022)の講読					
[4Q] 参考図書の講読					
<b>教科書及び参考図書（予定）</b>					
[教科書]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>● Mark Koyama and Jared Rubin, 2022. How the World Became Rich: The Historical Origins of Economic Growth</li> </ul>					
[参考図書]（予定）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>● Joseph Henrich, 2020. The WEIRD People in the World: How the West Became Psychologically Peculiar and Particularly Prosperous</li> </ul>					
<b>Robert Boyd and Peter J. Richerson, 1985. Culture and the Evolutionary Process.</b>					
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
報告の内容及び平素の学習態度（出席も含む）。			演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 通常のゼミ以外に、よりカジュアルな日本語文献（新書など）を集中的に講読するための輪読会（合宿？）を予定します。</li> </ul>					
<b>応募に当たっての注意</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ オープンゼミは実施しません。</li> <li>■ 応募に当たってゼミ説明会への参加は必須ではありませんが、ミスマッチを防ぐため、できるだけ参加しておいてください。</li> <li>■ 応募者多数の場合は面接をすることがあります。</li> </ul>					

# 経済・経営学演習／経済工学演習

(室賀貴穂 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	労働経済学演習	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	室賀貴穂	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	統計学・計量経済学・労働経済学の基礎を理解していることが望ましい。		キーワード	労働経済学、ミクロ実証分析	
全体の教育目標	労働経済学やミクロ実証分析に関する理解を深める。		個別の学習目標	ゼミでの活動を通じた能動的学習	
<b>授業の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書を輪読し、労働経済学で使用されている実証分析手法について理解を深める。</li> <li>● 労働参加・高齢化・教育・結婚等、労働経済学に関わる諸問題について理解を深める。</li> <li>● 受講人数によって変更の可能性はありますが、3-4年の合同でのゼミを行う予定です。</li> </ul>					
<b>授業計画</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書や学術論文を輪読する。</li> <li>● グループごとにテーマを決め、データ収集・実証分析・プレゼンテーションを行う。</li> </ul>					
<b>授業の進め方</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 報告・討論</li> <li>● グループワーク</li> <li>● RやStataを用いた実習</li> </ul>			<b>教科書及び参考図書</b> <p>【教科書】初回ゼミ時に話し合いますが、下記の教科書を予定しています。 川口大司.(2017). 労働経済学—理論と実証をつなぐ. 有斐閣</p> <p>【参考書】 中室牧子, &amp; 津川友介. (2017). 「原因と結果」の経済学: データから真実を見抜く思考法. ダイヤモンド社.</p>		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平常点をもとに成績評価を行います。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> ゼミ生と話し合いの上、ゼミの企画を決めていきたいと思ひます。					
<b>応募に当たっての注意</b> ゼミ説明会への参加を推奨します。 受講者の選抜では、成績だけでなくサークル・部活・アルバイト・資格取得・趣味等の大学での学業以外の活動についても重視しますので、申込書には、志望理由と共に、あなたがこれまでに一生懸命取り組んでいらっしやったことに関しても記述してください。					

# 経済・経営学演習／経済工学演習

(菅 史彦ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	実践・データ分析	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	菅 史彦	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	統計学・計量経済学の基礎を理解していることが望ましいが、並行履修でも構わない。		キーワード	マイクロデータ分析、計量経済学、労働経済学	
全体の教育目標	データから何がわかって何がわからないのかを知ること。 自分の考えの正しさ・確からしさを示すために、自分でデータを分析できるようになること。 自分の考えを人に伝えるための技術を磨くこと。		個別の学習目標	3年生の目標は、統計学・計量経済学の有用性と限界を理解し、統計ソフトRを使いこなせるようになること。 4年生は、各自でテーマと分析したいデータを見つけ、統計ソフトを使って自力でデータ分析ができるようになることを目指す。	
<b>授業の概要</b>					
<p>ICT技術の発展により、データ分析の技術や知識が活きる場面が増えています。自分や他人の主張・アイデアが正しい、あるいは間違っていることを示したいときに、データ分析は強力なツールになります。また、世の中にはデータを使った嘘やごまかしが溢れており、そういったものに惑わされないためにも、データ分析の基本的な知識は役に立ちます。</p> <p>データ分析にも様々なトピックがありますが、菅ゼミでは因果推論をメインテーマに据えています。因果推論とは、データから変数間の因果関係を見出す手法のことです。一般に、相関関係（二つの変数が連動していること）は、必ずしも因果関係（原因・結果の関係）を意味するとは限らず、見せかけの相関や逆の因果に多くの方が騙されがちです。因果推論を学ぶことで、どのような情報や変数があれば、変数間の因果関係を証明することができるのかを知ることができます。</p> <p>本演習では、データ分析（統計学・計量経済学）、特に因果推論に関する基本的な知識を身に付けてもらうとともに、実際に統計ソフトを使ってみることで、データ分析の技術を習得してもらうことを目的としています。それにより、データを使って何が出来て、何が出来ないのかを知り、皆さんがデータ分析を将来の仕事や日々の暮らしに役立てることができるようになることを目指します。</p> <p>ゼミは基本的には3、4年生合同で、大学院生にもたまに参加してもらう予定です。</p>					
<b>授業計画</b>					
<b>【前期】</b>					
<p>3年生は、教科書の輪読（発表&amp;議論）、東京大学社会科学研究所データアーカイブのデータ紹介、およびデータ分析に関する本の発表を平行して行う。教科書の発表では、統計ソフトRを使い、教科書の例の再現と演習問題の解説をしてもらう。</p> <p>4年生は、各自関心のあるテーマに沿って東京大学社会科学研究所データアーカイブでデータを見つけ、前期の終わりにデータの概要や関心のある変数の分布や基本統計量について発表してもらう。発表のタイミングについては、就職活動の進捗状況を考慮し、可能な限り柔軟に決めることとする。</p>					
<b>【後期】</b>					
<p>3年生は、教科書の輪読の代わりに東京大学社会科学研究所データアーカイブのデータを使い、実際にデータを使った実証分析をしてもらう。データ紹介と本の発表は後期も継続する。</p> <p>4年生は、後期の最初に分析の背景や先行研究について発表してもらう。その後、前期に選んだデータを使い、回帰分析等の手法を駆使して分析し、分析結果について冬休み前に簡単に発表してもらい、学期末に分析を修正し全てまとめたものを発表してもらう。分析結果はデータ利用報告書としてまとめてもらう（全員）が、希望者は卒業論文にまとめる（希望者のみ）。</p>					

前期後期通して、発表内容に関して私が発表者や（学年問わず）全ての参加者に質問するとともに、適宜グループディスカッションも行う。

<p><b>授業の進め方</b> 一人20～30分程度で、毎回3～4人に順番に発表してもらおう。基本的にはスライドを使って発表し、内容について全員で議論する。また、前期は教科書に練習問題があるので、解き方をランダムに当てた一人に解説してもらおう。 データ分析は無料統計ソフト”R”を使って実習を行う。前期にRの使い方、後期はデータの使い方に関するチュートリアルセッションを行い、3年生のうちに回帰分析まで一通りできるようになることを目指す。 必要に応じて毎回私から質問をし、発表者に答えてもらったり、グループディスカッションを行ったりする予定。</p>	<p><b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】 星野・田中（2016）『Rによる実証分析－回帰分析から因果分析へ－』オーム社  【参考書】 伊藤公一朗（2017）『データ分析のカー因果関係に迫る思考法』</p>
--	---

<p><b>試験・成績評価の方法等</b> 発表（50%）、出席&amp;授業態度(30%)、宿題(20%)。授業態度は積極性を重視する。</p>	<p><b>その他</b> 演習参加申込を行い、受講を認められた学生だけが登録できる。四年次の受講は、三年次に受講した学生に限る。</p>
---	---

**ゼミの企画、その他特記事項**

- 四年生が提出するデータ利用報告書は、四年次にスライドを使って発表したものを文章にしてまとめ、必要に応じて加筆修正したものを想定している。
- 卒業論文は、上記のデータ利用報告書にさらに加筆修正を行い、きちんと論文としての体裁を整えたものを想定している
- 卒業論文については、希望者のみ指導する。ただし、大学院進学希望者や、(留学などの際に)将来的に推薦状が必要となる可能性があると思う学生は、執筆することが望ましい。
- ゼミ合宿やインターゼミ等の企画はまだないが、希望者がいれば積極的に開催したい。

**応募に当たっての注意**

- ゼミ説明会はオンラインで行う。Moodle に説明会用のページ(『2022 年度通年・経済工学演習説明会(菅 史彦)』)を設置し、そこに Zoom のリンクを貼り付ける。
- ゼミ説明会には可能な限り参加すること。参加できない場合は、Moodle 上に資料をアップするので、それを参照し、質問がある場合は、メール(suga“at”econ.kyushu-u.ac.jp)にて連絡すること。
- 11月29日(月)四限をオープンゼミとするので、ゼミの雰囲気を知りたい場合は参加すること。
- オープンゼミ参加希望者は事前に私にメールで連絡すること。

応募数が上限を超えた場合には、統計学・計量経済学への理解度、関心のあるテーマとGPAに基づいて書類選考を行う。そのため、演習参加申込書には、

- ① 統計学や計量経済学に関係する講義をこれまでに受講したことがあるか、
- ② (受講したことがあれば)その時の成績、
- ③ 興味・関心のあるテーマ(統計学や計量経済学でなくても構わない)、
- ④ GPA

を明記すること。

# 経済・経営学演習／経済工学演習

( 北原 知就 ゼミ )

授業科目名	経済工学演習		講義題目		
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名		授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	「微分積分学・同演習AB」、 「線形代数・同演習AB」の単位を修得していることが望ましいです。		キーワード	数理計画法、オペレーションズ・リサーチ	
全体の教育目標	数理的能力、プログラミング能力、コミュニケーション能力、英語力を総合的に伸ばすことを目標とします。		個別の学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門文献を理解できる。</li> <li>2. 自分が理解したことを他人に自分の言葉でわかりやすく説明できる。</li> <li>3. 数理計画法の基本的なアルゴリズムを理解し、プログラミングできる。</li> <li>4. 自ら課題を見つけて勉強や研究を進め、結果をわかりやすくまとめられる。</li> </ol>	
<b>授業の概要</b>					
数理計画法とは、現実の意思決定問題を数学的にモデル化し、得られたモデルをアルゴリズムを用いて解くことによって、効率的な意思決定を目指す方法論です。この授業では、まず数理計画法の理論を基礎から学び、基本的なモデルやアルゴリズムを理解します。同時に、基本的なアルゴリズムをプログラミング言語を用いて記述できるようにします。さらに、データ解析のコンペに参加するなどして、自主性や実践力を伸ばすことを目指します。本授業は3年生と4年生合同で行う予定です。					
<b>授業計画</b>					
本授業は、前期に数理計画やプログラミングの基礎を学習し、後期には、前期に学んだことを実践的な場で生かすことを目指します。そのような取り組みとして、ここ3年間データ解析のコンペティションに参加しています。このような取り組みが今後も続くかは未定ですが、実践力を付ける取り組みは続けていく予定です。					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語または英語で書かれた専門文献を輪読します。</li> <li>2. 演習問題やプログラミング課題を課し、授業中に説明してもらいます。(以上1、2は前期の内容です。)</li> <li>3. データ解析のコンペに参加するなどして、前期に学んだことを実践的に生かせるようにすることを目指します。</li> </ol>			<b>【教科書】</b> ・アルゴリズムとデータ構造、大槻兼資、講談社(2020) ・機械学習のエッセンス、加藤公一、SBクリエイティブ(2018) ・First course in algorithms through puzzles, Ryuhei Uehara, Springer (2019) <b>【参考書】</b> ・適宜指定します。		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
授業参加の様子などから総合的に評価します。			演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できます。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学生の皆さんの意見を皆さんと良いゼミを目指していきたいと思っています。</li> <li>2. 皆さんのよい部分を見つけ、伸ばしていけるようなゼミでありたいと思っています。</li> <li>3. ゼミ論文を課すことは、現時点では考えていませんが、データ解析コンペへの参加など、自主的、実践的な学びの機会を設けます。</li> <li>4. 副演習で参加している学生もいます。今年度の参加状況は3年生:経済経営学科1名、文学部1名、</li> </ol>					

4 年生:経済工学科 1 名となっています。

5. ゼミの企画は学生の皆さんの自主性にお任せします。

#### 応募に当たっての注意

1. ゼミ説明会はオンラインで行います。説明会の URL やゼミの資料は、Moodle の下記のページ

<https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=35200>

に掲載します。説明会に参加を希望される方は、コース登録をお願いします。

2. オープンゼミは実施しませんが、ゼミへの参加を希望される場合は、お気軽に担当教員までご連絡ください。

3. ゼミを選ぶ際は、ミスマッチを避けるため、一度は教員と話をしておいたほうが良いと思います。そのため、当ゼミを希望される方は、できるだけ説明会へ出席してください。用事等で出席が難しい場合は、個別対応もできますのでご連絡ください。

4. 選考にあたっては、志望理由を重視します。また、面接を実施することがあります。

5. ゼミについてわからないことがありましたら、お気軽に下記アドレスにご連絡ください。

アドレス: [tomonari.kitahara@econ.kyushu-u.ac.jp](mailto:tomonari.kitahara@econ.kyushu-u.ac.jp) ('at'を@で置き換えてください)

## 経済工学演習 (小室 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	微分方程式を用いた数理モデリング	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	小室 理恵	授業対象学生及び学年等	3年次以上
単位数	4単位				
履修条件	基幹教育で必修の数学の内容を理解していること.		キーワード	数理モデリング, 常微分方程式	
全体の教育目標	様々な分野における現象を表した微分方程式を構築し, 解の分析をする.		個別の学習目標	教科書を読んで内容を理解するだけでなく, 発展的に学習する能力を身に付ける.	
<b>授業の概要</b> 現象を数式で表すことを数理モデリングという. 微分方程式は数理モデルとしてよく使われる手法であり, 物理や生物の現象を説明するための非常に有効なツールである. 経済学の分野でも微分方程式を用いて様々な数理モデルを構築することができる. また, 最近の大きな関心事である感染症の広がりを表すのにも用いられている. この授業では, 微分方程式を用いた数理モデルを扱う. 様々な分野における現象を微分方程式で表すこと, さらにその解の分析方法についても学習する. 2年目以降の受講者(4年生)とは別に行う.					
<b>授業計画</b> まずは基礎となる常微分方程式の教科書を読み進め, 途中で何度か数理モデルを使った応用例(絵画の年代測定, 感染症の広がり, 生物の捕食-被食関係等)にふれる. 知識をある程度得た後, ソフトウェアを用いて数値的解法や解の分析方法を学習する.					
<b>授業の進め方</b> 輪講形式で教科書を読み進める			<b>教科書及び参考図書</b> 【教科書】いくつかの選択肢の中から, 受講者と相談して決定する予定.		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 原則として出席(参加)必須. 成績評価は授業参加40%, 発表35%, その他(課題提出等)35%で行う.			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる.		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> 応用数学のゼミなので, 数学が「好き」な人が対象であるが, 「得意」である必要はない.					
<b>応募に当たっての注意</b> ゼミ説明会: 対面とオンラインどちらでも受講可能のハイフレックス形式で行う. ミスマッチを避けるため, 参加希望者は出席することが望ましい. 出席できなかった場合は応募前に必ず連絡すること. 2次募集の際も同様. Moodle のコースページ「2022 年度経済工学演習説明会(小室ゼミ)」に情報を掲載するので, 参加予定者は, 参加方法に関わらず必ずコース登録しておく. <a href="https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=40459">https://moodle.s.kyushu-u.ac.jp/course/view.php?id=40459</a> 経済 HP 内の「ゼミナール関連情報」にも情報を掲載予定. 申込書: 志望理由を重視する. また, こちらから連絡することもあり得るので, 定期的にチェックしているメールアドレスを明記する. 質問があればメール(ric.komuro'at'econ.kyushu-u.ac.jp 'at'を@に変更する)で連絡を.					

## 経済・経営学演習／経済工学演習 （ 松本 浩一 ゼミ）

授業科目名	経済工学演習		講義題目	金融工学・数理ファイナンス	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*		
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	松本 浩一	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	線形代数, 微分積分, 基礎的な確率・統計の知識		キーワード	金融工学, 数理ファイナンス	
全体の教育目標	金融工学の専門知識の習得		個別の学習目標	Black Scholes 価格の理解	
<b>授業の概要</b> 金融工学は金融機関における投資, リスク管理, 商品開発などのために発展してきた学問である。最近では, 天候, 地震, 不動産, 企業経営に伴う事業リスク等も研究対象としており, 応用分野は多岐にわたる。今や金融工学は金融機関のみならず, 一般企業にとっても有用な学問である。 本講義は, 金融工学の専門知識を生かした職務を志望する学生, あるいは研究者を目指す学生を対象としたゼミである。ゼミでは特に数理的専門能力の育成に重点を置く。					
<b>授業計画</b> 講義では, 金融工学に関する教科書を分担して精読する。金融工学の専門的知識を深めつつ, 金融市場に関する知識もバランスよく身に付けていくことが重要である。教科書は受講予定者の希望を踏まえて決定する。					
<b>授業の進め方</b> 教科書を分担して担当者が説明し, 質疑応答を行うセミナー形式で行う。			<b>教科書及び参考図書</b> Steven E. Shreve, <i>Stochastic Calculus for Finance I: The Binomial Asset Pricing Model</i> , Springer Verlag, 2003 ジョン ハル, 東京三菱銀行金融商品開発部(翻訳)『フィナンシャルエンジニアリング—デリバティブ取引とリスク管理の総体系』金融財政事情研究会, 2009年		
<b>試験・成績評価の方法等</b> 平素の授業での発表, 質疑応答を総合的に評価する。			<b>その他</b> 演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b> 文理双方の能力を必要とする。数学, 経済, 計算機すべてに意欲的に取り組める好奇心旺盛な学生が望ましい。					
<b>応募に当たっての注意</b> 本ゼミへの参加を希望する学生は説明会に参加し, 定められた日時までに以下の手続きを行うこと。 1. ゼミ申込書 (Word) に下記の内容をすべて記述し, 事務に提出すること。 (1) 将来の夢, 展望 (希望職務, 大学院進学等, なるべく具体的に記入) (2) 志望動機 (3) ゼミ関連科目成績 (以下の基幹教育数学の成績は必ず記入, 3年次編入者は対応科目を記入) 線形代数, 微分積分, その他金融工学・数理ファイナンス関連科目 (数学, 統計, 計算機等)					

(4) 自分が当てはまると思うほうを選択せよ。

数学が（好き，嫌い），数学が（得意，苦手）

(5) 英語のテキストを使用することは可能か。

(6) 2年間，ゼミに集中して取り組むことができるか。

（毎週，十分な予習が必要となるため，副ゼミは不可）

(7) 自己アピール

（他のゼミ参加者に，どのような貢献ができるか，理由を明確にして記述すること）

2. 必ず，メールにて松本（k-matsu@econ.kyushu-u.ac.jp）までゼミ参加希望の連絡をすること。

本文には必ず氏名，学籍番号を含め，事務に提出した **Word ファイル複製を添付**すること。

なお，重要事項を送付してきたメールに返信連絡する予定であるため，普段から確認しているメールアドレスを用いること。

なお，ゼミ参加申請後，参加希望者全員と Zoom にて面接を実施する。

**演習参加申込書の提出方法（※提出にあたっては、教員が ■ と指示している提出方法に従うこと。）**

第1次募集    手書き    Word ファイル    いずれも可

第2次募集    手書き    Word ファイル    いずれも可

経済・経営学演習／経済工学演習

( 古川 ゼミ )

授業科目名	経済工学演習		講義題目	情報システムでのデータ利用	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード*	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	古川哲也	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件			キーワード		
全体の教育目標	情報技術を用いたデータ利用を理解する		個別の学習目標	情報システムを活用する上での知識を身につける	
<b>授業の概要</b>					
<p>情報化社会といわれる現在では、大量のデータをいかに活用するかということが重要である。本演習では、コンピュータ利用に関する基礎知識を得るとともに、コンピュータを用いて収集したデータを整理、解析し利用できるようにする過程を幅広く検討する。演習は3・4年合同で行う。</p>					
<b>授業計画</b>					
<p>コンピュータを用いたデータ利用にかんする様々な事例について学習する。          第1回 ガイダンス：ゼミの進め方等          第2回以降 報告および討論と情報技術の解説</p>					
<b>授業の進め方</b>			<b>教科書及び参考図書</b>		
<p>報告とそれに関する討論およびレポート。実習を課すことがある。</p>			<p>【教科書】          【参考書】 随時紹介する。</p>		
<b>試験・成績評価の方法等</b>			<b>その他</b>		
<p>平素の成績 50%、レポート 50%。          原則として出席は必須。</p>			<p>演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる。</p>		
<b>ゼミの企画、その他特記事項</b>					
<p>情報処理に関する資格(ITパスポート、情報処理技術者など)の取得を推奨している。ゼミの運営には、メーリングリスト、ホームページ、電子掲示板などを活用する。ゼミでは、資料のまとめ方、プレゼンテーション、討論を重視する。また、ゼミ生の企画によるイベント(コンパ、合宿等)を行っている。</p>					
<b>応募に当たっての注意</b>					
<p>パソコンの操作を始めとする情報技術についての知識は求めない。ゼミへの参加を通じて情報機器を利用するための知識を身につけるが、ゼミはパソコン教室ではないので注意すること。          オープゼミは実施しない。ゼミ説明会に参加できない場合は、メールで連絡すること。          furukawa@econ.kyushu-u.ac.jp</p>					

経済・経営学演習／経済工学演習

(伊豆永 洋一 ゼミ)

授業科目名	経済工学演習		講義題目	モデリングとアルゴリズム	
授業科目区分	選択必修科目		授業科目コード	—	
授業方法及び開講学期等	通常講義 通年	担当教員名	伊豆永 洋一	授業対象学生及び学年等	3年以上
単位数	4単位				
履修条件	微分積分学・同演習AB, 線形代数学・同演習ABを履修済みであること.		キーワード	アルゴリズム, 数理最適化, 機械学習, 数理モデリング	
全体の教育目標	数学という共通の言語を用いた論理的な思考法や, 明快に表現する能力を身に付ける.		個別の学習目標	機械学習や数理最適化におけるアルゴリズムを理解し, それらを適切に活用する.	
<p><b>授業の概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近年, 機械学習に代表されるように大量の情報を収集・認識する技術が目覚ましい発展を遂げている. そのような収集・認識された情報から意思決定を行うための技術の一つに数理最適化(数理計画法)がある.</li> <li>本ゼミでは, これらの技術の背後にあるモデリング手法やアルゴリズムを理解することを目標とする. また, プログラミング言語によるアルゴリズム実装やそれを用いた応用分析も行う.</li> </ul> <p>※ 2022年度からスタートするゼミなので, 演習は(4年生の受講者がいれば)3・4年合同で実施します. 次年度以降については, 合同あるいは分割して実施するかは未定です.</p>					
<p><b>授業計画</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 数学的準備(基本的な, 集合論, 線形代数, 微積分, 確率統計)</li> <li>2. 最適化モデルとアルゴリズム</li> <li>3. 機械学習への応用</li> <li>4. Python による演習</li> </ol>					
<p><b>授業の進め方</b></p> <p>輪講形式で進行し, 各回の担当者が資料を作成し内容を説明する. モデリングやプログラミングに関する演習も実施予定.</p>			<p><b>教科書及び参考図書</b></p> <p>【教科書】 上記のキーワードに関連するものを, 受講者の興味・関心に応じて決定する.</p> <p>【参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• “The Elements of Statistical Learning,” T. Hastie, R. Tibshirani, J. Friedman, Springer, 2009.</li> <li>• 『しっかり学ぶ数理最適化』, 梅谷俊治, 講談社, 2020.</li> <li>• 『世界でもっとも強力な9のアルゴリズム』, ジョン・マコーミック, 日経BP社, 2012.</li> <li>• 『33の素敵な数学小景』, Jiri Matousek, 日本評論社, 2014.</li> </ul>		
<p><b>試験・成績評価の方法等</b></p> <p>ゼミでの発表・質疑応答および演習を総合的に評価する.</p>			<p><b>その他</b></p> <p>演習参加申込を行い受講を認められた学生だけが登録できる.</p>		

#### ゼミの企画、その他特記事項

- ゼミで取り扱う内容は、みなさんの興味に応じて柔軟に対応します。
- 参考までに過去に学生（他大学）が扱ったテーマの一例（安定マッチングを用いた吹奏楽部のパート割当）を挙げておきます。 <https://bit.ly/39G9H0w>
- ゼミの企画は、学生のみなさんの自主性にお任せします。

#### 応募に当たっての注意

- ゼミ説明会はオンライン（Zoom）で行います。
- 説明会に関する情報はMoodleを通じて提供するので、参加を希望される方は「2022年度 経済工学演習に関する案内（伊豆永 洋一）」に登録してください。
- 本ゼミを希望される方は、可能な限り説明会に参加してください。参加が難しい場合は、個別あるいはオンデマンド等にて対応しますので、メールにてご連絡ください。
- その他にもゼミに関して質問があれば、お気軽にメールにてご連絡ください。

E-mail: izunaga<at>econ.kyuhsu-u.ac.jp（<at>を@に置換）